



ニ沿ハサル溝渠ニシテ從來家屋建設アルモノニ限り使用可差許候條來ル三月卅一日迄ニ出願候  
様取計フヘシ  
但使用中土砂浚方修繕等ハ使用者ニ於テ負擔スル旨願書掲載セシムヘシ  
右内訓ス

第十四 諸興行等

●縣令第五十三號 明治廿三年十一月二十六日

明治廿九年九縣令第八十八號寄席取締規則左ノ通改定ス

寄席取締規則

第一條 寄席ヲ建設セントスルモノハ建物坪數位置構造ヲ詳記セル圖面ヲ添へ所轄警察官署ヲ  
經由シテ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ工事落成ノ上ハ警察官署ニ届出檢分ヲ經ルニアラサレハ  
開業スル事ヲ得ス其改造變更ヲ要スルモ亦同シ

第二條 寄席ハ公立學校及ヒ幼稚園ヲ距ル直徑六十間以上ノ場所ニアラサレハ建設スルコトヲ得  
ス

第三條 寄席ハ左ノ制限ニ從ヒ堅牢ニ構造スヘシ

- 一 建物ノ左側若クハ右側ニ一間以上ノ空地ヲ存スルコト
- 二 天井ノ高サハ床上ヨリ曲尺九尺以上トナスコト
- 三 周圍(二階棧敷トモ)二間毎若クハ一間指キニ縱曲尺二尺以上ノ窓ヲ設クルコト
- 四 木戸口ハ高サ間口トモ曲尺六尺以上トナシ戸ハ外開キ又ハ引戸トナスコト
- 五 二方以上便宜ノ場所ニ間口戸締前項ト同一ノ非常口ヲ設クコト但二階ノ非常口ニハ扶欄  
付ノ階段若クハ足代ヲ設クヘシ
- 六 便所ハ客席ト充分ノ距離ヲ取リ臭氣ノ漏レサル様構造シ便器ハ石敲陶器等ヲ以テ之ヲ作  
ルコト但實際便所ノ距離ヲ充分ナラシメ難キ場所ハ便所ノ前ニ少クモ一間以上ノ土間ヲ設  
クヘシ

第四條 寄席ヲ移轉シ若クハ讓受ケントスルトキハ第一條ノ手續ニ依リ願出許可ヲ受クヘシ

第五條 轉居代替改氏名若クハ廢業シタルトキハ速ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第六條 定席ニアラサル場所ニ於テ一時寄席ヲ開キ興行セントスル者ハ第三條ノ構造制限ニ從  
フヲ要セスト雖モ第一條ノ手續ニ依リ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ其興行ニ係ル事ハ  
凡テ本則ニ從フヘシ但興行日數ハ十日ヲ限リトス

第七條 二階棧敷ハ豫メ人員ヲ定メ揭示シ置クヘシ

第八條 興行中使用スル洋燈ハ其油蓋釣銷トモ金屬製ノモノトシ石油ハ火止ノ外之レヲ用ユヘ

カラス

- 第九條 ポンプ若クハ龍吐水又ハ之ニ相當スル消防器具並蓄水器ヲ備ヘ置クヘシ
- 第十條 客席便所流シ口下水等ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシムヘシ
- 第十一條 興行ヲナサントスルルハ演藝ノ種類興行日數時間木戸錢席料藝人ノ住所氏名藝名等ヲ詳記シ其鑑札ヲ添ヘ所轄警察官署ニ届出ヘシ
- 第十二條 興行時間ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限リトス
- 第十三條 何等ノ名義ニ拘ハラズ抽籤等ヲ以テ來客ニ物品ヲ與フルノ所爲ヲナスヘカラス
- 第十四條 猥褻ニ涉リ又ハ風俗ヲ害シ若クハ治安ニ妨害アル演藝ト認ムルルハ其一部若クハ全部ノ興行ヲ停止スヘシ(明治廿四年縣令第三十六號ヲ以テ改正)
- 第十五條 來客ヲシテ諸藝人ノ席ニ立入ラシメ若クハ諸藝人ヲシテ客席ニ立入ラシム可カラス
- 第十六條 興行中ハ警察官吏臨檢シ若シ危害アリト認メタルトキハ直ニ改修ヲ命シ又ハ興行ヲ停止スルコアルヘシ
- 第十七條 第一條第四條第六條第八條第九條第十條第十三條ノ違犯者ハ一日ノ拘留又ハ五錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

附 則

從來ノ寄席ニシテ本則ノ構造制限ニ抵觸スルモノハ大修繕ヲ要スルト又ハ燒失崩壞ニ罹リタルトキハ本則ニ依リ改造スヘシ

●縣令第六十號 明治二十三年十二月十九日

明治廿九年九縣令第八十七號劇場取締規則左ノ通改定ス

劇場取締規則

- 第一條 劇場ヲ建設セントスルモノハ建物坪數位置構造ヲ詳記セル圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經由シテ縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ工事落成ノ上ハ警察官署ヘ届出檢分ヲ經ルニアラサレハ開業スルコトヲ得ス其改造變更ヲ要スルト又同シ
- 第二條 劇場ハ幅員三間以上ノ道路ニ面シ公立學校及幼稚園ヲ距ル直徑六十間以上ノ場所ニアラサレハ建設スルコトヲ得ス
- 第三條 劇場ハ左ノ制限ニ從ヒ堅牢ニ構造スヘシ
  - 一 建物ノ左右及ヒ後面ニ二間以上ノ空地ヲ存スルコト
  - 二 天井ノ高サ床上ヨリ二間以上トナス事
  - 三 周圍(二階樓敷トモ)ニ縱曲尺二尺以上ノ窓ヲ連設スル事
  - 四 木戸ハ高サ曲尺六尺以上間口同二間以上トナシ戸ハ外開キトナス
  - 五 四方或ハ三方便宜ノ場所ニ間口戸締前項ト同一ノ非常口ヲ設クル事但二階ノ非常口ニハ

明治廿六年縣令第六十號第一條第四條更正

警察職務 諸興行等

- 扶欄付ノ階段若クハ足代ヲ設クヘシ
- 六 土間ノ客席ニハ四樹毎ニ縱若クハ横ニ幅曲尺一尺以上ノ通路ヲ設クニ階級數ニハ幅曲尺五尺以上ノ扶欄付ノ階段二個以上ヲ設クヘシ
- 七 便所ハ客席ト充分ノ距離ヲ取り臭氣ノ漏レザル様構造シ便器ハ石敲陶器等ヲ以テ之レヲ作ル事但實際便所ノ距離ヲ充分ナラシメ難キ場所ハ便所ノ前ニ少クモ一間以上ノ土間ヲ置クヘシ
- 八 非常用ノタメ二個以上ノ井戸ヲ穿テ若クハ之レニ相當スル蓄水器ヲ備フル事
- 第四條 劇場ヲ移轉シ若クハ讓受クントスルトハ第一條ノ手續ニ依リ願出許可ヲ受クヘシ
- 第五條 轉居代替改氏名若クハ廢業シタルトハ速ニ所轄警察官署ヘ届出ヘシ
- 第六條 神佛祭典等ノ節一時演劇ヲ興行センカ爲メ假劇場ヲ建設セントスル者ハ第三條ノ構造制限ニ從フヲ要セスト雖モ第一條ノ手續ニ依リ所轄警察官ヘ願出許可ヲ受クヘシ其演劇興行ニ係ル事ハ凡テ本則ニ從フヘシ但興行日數ハ七區ヲ限リトス
- 第七條 二階ノ客席ハ豫メ人員ヲ定メ見易キ場所ヘ揭示シ置クヘシ
- 第八條 演劇興行中使用スル洋燈ハ其油盞釣銷トモ金屬製ノモノトシ石油ハ火止ノ外之ヲ用ユヘカラス
- 蠟燭ヲ使用スルトハ金網其他ノ防觸器ヲ以テ覆ヒタル燈器ヲ用ユヘシ
- 第九條 ボンプ若クハ龍吐水及ヒ之レニ附屬スル消防器具ヲ備ヘ置クヘシ

- 第十條 客席便所流シ口下水等ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシムヘシ
- 第十一條 演劇ヲ興行セントスルトハ前日迄ニ興行日數時間木戸錢席料俳優其他藝人ノ住所氏名等ヲ詳記セル書面ニ鑑札並ニ狂言筋書ヲ添ヘ所轄警察官署ヘ届出ヘシ(二十九年縣令第八十七號ヲ以テ但書刪除)
- 本條届面ニ變更ヲ生シタルトキハ其都度同官署ヘ届出ヘシ
- 第十二條 興行時間ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限リトス
- 第十三條 何等ノ名義ニ拘ハラス抽籤等ヲ以テ觀客ニ物品ヲ與フルノ所爲ヲナス可カラス
- 第十四條 猥褻ニ涉リ又ハ風俗ヲ害シ若クハ治安ニ妨害アル演藝ト認ムルキハ其一部若クハ全部ノ興行ヲ停止スヘシ(明治廿四年縣令第三十七號ヲ以テ改正)
- 第十五條 觀客ヲシテ樂屋又ハ俳優諸藝人ノ席ニ立入ラシメ若クハ俳優諸藝人ヲシテ觀客席ニ出入セシム可カラス
- 第十六條 演劇興行中ハ警察官吏臨檢シ若シ危害アリト認メタルキハ直ニ改修ヲ命シ又ハ興行ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第十七條 第一條第四條第六條第八條第九條第十一條第十三條第十五條ノ違犯者ハ刑法第四百廿八條第五項ニ依テ處分ス

附 則

從來ノ劇場ニシテ本則ノ制限ニ抵触スルモノハ大修繕ヲ要スルトキ又ハ燒失崩壊ニ罹リタルハ本則ニ依リ改造ス可シ

●縣令第三十四號 明治三十一年四月廿八日

觀世物興行取締規則左之通相定ム

觀世物興行取締規則

第一條 觀世物興行ヲサントスルモノハ其種類方法ヲ記シ定小屋ハ小屋主ヨリ其他ハ地主連署シ市ハ市役所町村ハ其町村役場ノ檢印ヲ受ク所轄警察官署へ届出テ認可ヲ受クヘシ但定小屋ハ指定地ノ外之レヲ許サズ

第二條 左ノ三ヶ所ニ於テハ觀世物興行指定地ノ外其他ノ地ハ官公私立學校及幼稚園ヲ距ル直徑六十間以上ノ場所ニアラサレハ之レヲ許サズ

- 一 靜岡市
- 一 濱名郡濱松町
- 一 駿東郡沼津町

第三條 定小屋ヲ建設セントスルモノハ其構造及使用方法アルモノハ其方法書ヲ添へ所轄警察官署へ届出認可ヲ受クヘシ但機敷ノ設ケアルモノハ寄席取締規則第三條第七條ヲ適用ス

第四條 左ニ掲クルモノハ觀世物ト爲ストテ得ス

- 一 禽獸蟲蛇ノ類ヲ咬嚼シ又ハ之レヲ斷截スル等醜惡殘忍ノ所爲
- 一 淫猥ノ唄踊其他風俗ヲ害スルノ虞アル所作

第五條 藝人ヲシテ客席ニ入り若クハ藝人ノ休息所ニ客ヲ入ラシムヘカラス

第六條 名義ノ如何ニ拘ハラズ抽籤ニ類似スル方法ヲ用ヒ客ニ物品ヲ與フルヲ得ス

第七條 興行中使用スル洋燈ハ其油壺及ヒ支持物トモ金屬製ノモノトシ石油ハ火止ノ外之レヲ用ニヘカラス

第八條 觀世物時間ハ日出ヨリ午後十時迄トス但烈風ニシテ火災ノ虞アルトハ何時ニテモ閉場スヘシ

第九條 觀世物場ハ毎朝掃除シ便所ニハ防臭劑ヲ散布スヘシ

第十條 人ニ危害ヲ加ルノ怖レアル觀世物(猛獸巨蛇ノ類)ハ容欄ヲ堅牢ニスルハ勿論人ヲシテ危害區域ニ立入ラシメサル様注意スヘシ

第十一條 興行中ハ警察官吏隨檢シ若シ危害アリト認メタルトハ改修ヲ命シ又ハ興行ヲ停止セシムルヲアルヘシ

第十二條 第一條第三條第四條第六條第七條ニ違背シ若クハ第十條ノ注意ヲ忘リ又ハ第十一條ノ停止中興行シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ

科料ニ處ス第五條第八條第九條ニ違反シタルモノハ二十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

●乙第六十六號

明治十年九月十五日

區 戶 長

各村町ニ於テ從來神事祭禮等ニ托シ少年輩俳優ニ紛ハシキ所業間々有之甚シキニ至リテハ優技ノ師ヲ雇ヒ其技ヲ講習スルニ至ル此レ實ニ教育ヲ妨ク風俗ヲ紊リ民害ヲナス不悞ニ付自今區戶長ニ於テ一層注意右等ノ惡弊ヲ一洗シ務メテ文化ニ進歩候様厚ク訓諭可致此旨諭達ニ及ヒ候事

●乙第二百二十三號

明治十一年十月四日

區 戶 長

各村町ニ於テ神事祭禮等ニ托シ少年輩俳優ニ紛ハシキ所業有之ニ付客年乙第六十六號ヲ以テ諭達ニ及ヒ置候儀モ有之處當今村社氏神等ノ祭祀ニ付學齡兒童ヲ以テ歌舞等爲致或ハ時容ノ衣服等ヲ着セシメ道路ヲ連歩シ祭祀ニ供スル等有之哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候元來謂レナキ醜爲ニテ父兄等深ク恥ツヘキ儀ニ候處舊風ニ慣染シ自然心得違ノ父兄有之ニ於テハ篤ク教諭ヲ加ヘ右様ノ振舞決シテ不相成候此旨相違候事

●甲第一百七號

明治十年十月二十四日

雜曲神樂營業願之儀從前差免來候處詮議ノ筋有之以後聞難屆候條既ニ許可ヲ得鑑札所持ノ者ハ早々還納可致此旨布達候事

●甲第一百八號

明治十年十一月十二日

雜曲神樂營業ノ儀ハ爾來難聞屆候條已ニ鑑札下與有之モノハ還納可致旨本縣甲第一百七號ヲ以テ及布達置候處右ハ神樂ト稱スルモノ、内俳優ニ紛ハシキ所業ヲ爲シ風俗ニ關スルモノハ難聞屆義ニテ單ニ神樂ト稱スルモノヲ差止候趣意ニ無之候條此旨更ニ布達候事

●甲第二百一號

明治十二年十月九日

神社祭典其他祝事等ノ際町村ニ於テ烟火及踊屋臺山車等興行候節ハ自今渾テ所轄警察署又ハ分署へ願出免許ヲ受クヘシ此旨布達候事(明治十五年甲第二百二十七號ヲ以テ更正追加)

●甲第一百七號

明治十八年十一月二十七日

明治十年七月甲第六十三號布達相廢シ候條諸興行ノ爲メ官地ヲ使用セントスルモノハ相當ノ料金ヲ以テ借地ノ儀出願スヘシ此旨布達候事

●縣令第四十一號

明治二十三年十月十四日

明治廿年九月縣令第八拾號遊藝場取締規則左ノ通改定ス

遊藝場取締規則

第一條 本則ニ於テ遊藝場ト稱スルハ室内射的、大弓、半弓、揚弓、吹矢、玉突、玉轉、投扇鏡、水囊打等ノ類ヲ營業トスルモノヲ云フ

第二條 遊藝場ヲ設ケ營業セントスル者ハ所轄警察官署へ願出許可ヲ受クヘシ

室内射の大弓營業願書ニハ射場ノ構造明細圖面ヲ添付シ工事落成ノ上ハ警察官署へ届出檢分ヲ經ルニアラサレハ開業スルコトヲ得ス其改造變更ヲ要スルトキ亦同シ

第三條 轉居代替リ改氏名並ニ廢業シタルトキハ速ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第四條 室内射的ノ標的背後ハ八分以上ノ板ニテ張立彈丸受クハ鐵板トナシ射場ノ兩側ハ板羽目又ハ壁トナシ距離ハ五間以上七間マテヲ限トス

第五條 大弓標的ノ背後ハ高サ一丈(板家根等ヲ設クルモノハ六尺以上ニテモ妨クナシ)幅一丈一尺以上ノ梁ヲ築キ射場ノ兩側ニハ適應ノ牆垣ヲ設クヘシ但危險ノ虞ナキ場所ハ此限リニアラス

第六條 室内射の大弓半弓及吹矢ハ生禽獸魚類ヲ標的トナス可カラス

第七條 強テ通行人ヲ誘ヒ又ハ客ヲ宿泊セシメ若クハ客ノ需メタリトモ酒肴ヲ出ス可カラス

第八條 何等ノ名義ヲ以テスルモ客ニ關テ賣リ又ハ景物ヲ出ス可ラヌ

第九條 營業ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限リトス

第十條 第二條第七條ノ違反者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上一圓以下ノ科料ニ處シ第六條第八條第九條ノ違反者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

一 溫泉宿、宿屋等ニ於テ來客運動ノ爲メニ設クル室内射の大弓射場ノ構造ハ本則ニ依リ所轄警察官署ニ届出檢分ヲ受クヘシ

●甲第百二十八號 明治十年十二月六日

童生ノ内獨樂ヲ玩弄シ間々怪我致候者有之哉ニ相聞候右ハ其父兄等ニ於テ懇々示諭シ愛護可致ハ勿論ニ候得共自然不注意ノ者有之候テハ他人ノ障害相成候條自今獨樂玩弄之儀禁止候此旨布達候事

但室内ニ於テ玩弄スルハ本文ノ限ニ非ス

●丙第十號 明治十三年二月廿三日

郡 町 村

遊藝稼人小屋掛ヲナシ一時興行ノ向民家又ハ寄席劇場等ヲ假用候儀ハ不苦候條各營業者へ告示スヘシ此旨相達候事

第十五 藝娼妓貸座敷等

●縣令第三十七號 明治三十年六月廿四日

明治廿三年十月縣令第四十號藝娼妓營業取締規則左之通改正ス

警察職務 藝娼妓貸座敷等

藝妓營業取締規則

- 第一條 藝妓營業ヲ爲サントスルモノハ書面ニ族籍住所氏名職業年齡等ヲ詳記シ所轄警察官署ヘ届出認可ヲ受クヘシ但十六年未滿ノモノハ父、父ナキモノハ母(何レモ實父母)父母共ニナキモノハ兄弟伯叔父母等最近親族連署スヘシ
- 第二條 廢業シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ヘ届出ヘシ
- 第三條 客ノ招キニ應ジ其居住スル市町村外ニ出ントスルトキハ所轄警察官署ヘ届出ヘシ其歸着シタルキ亦全シ
- 第四條 第一條ノ認可ヲ受クス又ハ第二條第三條ノ届出ヲ爲サル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

- 告第二百二十二號 明治十六年六月廿五日  
本縣下ノ者他管下ニ於テ貸座敷引手茶屋及藝妓營業ヲナサント欲スル時ハ所轄警察署ヘ申出添翰ヲ受ク可シ此旨告示候事  
但本文ニ關スル從前ノ布達告示ハ總テ廢止ス
- 縣令第四十四號 明治二十三年十月二十九日

明治十八年三月甲第二十五號布達藝妓貸座敷引手茶屋取締規則左ノ通改定ス

娼妓貸座敷引手茶屋取締規則

第一章 通則

- 第一條 娼妓稼ハ貸座敷内ニ貸座敷引手茶屋渡世ハ免許地區域内ニ限リ之ヲ免許ス
- 第二條 娼妓貸座敷引手茶屋渡世ノ免許地ハ之ヲ左ニ掲ク

遠 江 國

- 敷知郡濱松町傳馬丁旅籠丁
- 濱名郡笠井町大字笠井字西浦(三十年縣令第四十號ヲ以テ追加)
- 全 郡西濱名村三ヶ日字上丁、西丁
- 全 郡新所村新所字日ノ岡
- 全 郡新居町新居字泉丁
- 長上郡掛塚村掛塚字横丁
- 濱名郡白須賀町白須賀字東傳馬丁
- 引佐郡氣賀町氣賀字刈谷、落合
- 全 郡金指町金指字下丁
- 豐田郡二俣町二俣字古丁
- 全 郡中泉町中泉字田丁
- 磐田郡見附町字東坂丁、馬場丁



山名郡山名町袋井  
 佐野郡掛川町掛川字仲丁、連尺丁  
 小笠郡西方村大字堀ノ内字南海戸(三十年縣令第十六號ヲ以テ追加)  
 榛原郡金谷町金谷字田町  
 全 郡相良町相良字新丁  
 城東郡大須賀村横須賀字大工丁  
 周智郡森町大字向天方字中河原(二十九年縣令第九十四號ヲ以テ追加)  
 駿河國  
 静岡市安倍川町  
 志太郡藤枝町鬼岩寺字上傳馬丁  
益津字上傳馬丁  
 全 郡島田町字二丁目、四丁目  
 庵原郡江尻町字志茂丁、仲丁  
 全 郡興津町興津字北側  
 駿東郡沼津町字上本町  
 全 郡御厨町大字御殿場土手九(廿九年縣令第七十九號ヲ以テ追加)  
 富士郡吉原町字六軒丁、東本町  
本丁、西本町  
 全 郡大宮町大宮字茨木(二十九年縣令第四十六號ヲ以テ追加)此ノ地ニ新規開墾セントスル貸座敷ハ三月ニ限リ  
 許可スルコトセリ  
 伊豆國  
 君澤郡三島町大  
小中島丁

賀茂郡網代村  
 全 郡下田町(二十九年縣令第四十六號ヲ以テ改正)  
 第三條 休業スルトキハ、取締連署シ直ニ所轄警察官署へ届出ヘシ  
 休業一年ヲ過ルトキハ總テ免許ノ効ヲ失フモノトス  
 第四條 廢業セントスルトキハ取締連署シ所轄警察官署へ届出ヘシ  
 但娼妓ハ貸座敷主ト連署ノ上此手續ヲナスヘシ  
 第二章 娼妓  
 第五條 娼妓稼ヲナサントスルモノハ本籍並寄留地氏名生年月日稼名及營業ノ理由ヲ願書ニ詳  
 記シ左記ノ者ノ連署ヲ要シ市町村長ノ與印ヲ受ケ契約書寫ヲ添ヘ所轄警察官署へ届出免許ヲ  
 受クヘシ  
 一 戸主及父或ハ母(實養共)  
 (父母ナキモノハ其旨ヲ記載シ戸主並ニ親屬、父母親屬ナキモノハ證人二名連署スヘシ但  
 親屬ハ兄弟姉伯叔父母等ノ別ヲ記スヘシ)  
 二 寄留スヘキ貸座敷主  
 三 取締(又ハ副取締)  
 第六條 娼妓年齡ハ滿十六年以上トシ滿三十年ヲ限リトス

警察職務 娼妓貸座敷等

第七條 娼妓稼免許期限ハ滿五ヶ年ヲ限リトス

第八條 檢梅ニ關スルコトハ總テ娼妓梅毒檢査規則ニ從フヘシ

第九條 娼妓ハ故ナク免許地外へ出ルコトヲ得ス若シ事故(病氣療養親屬ノ吉凶看護及墓參等)アリテ免許地外へ出ントスルトキハ取締ノ承認ヲ受ケ其證書ヲ携帶スヘシ

第十條 免許地ト雖モ一區域ヲナサル所ニ於テハ故ナク路上ヲ徘徊スヘカラス

第十一條 他ノ免許地へ寄留換セントスルトキハ第五條ノ手續ニ從ヒ之レニ寄留換地ノ貸座敷主及取締ノ連署ヲ要シ所轄警察官署へ願出免許ヲ受クヘシ尙ホ寄留換地ノ警察官署へ届出ヘシ

全免許地内ニテ甲家ヨリ乙家へ寄留換セントスルトキハ前項ニ準シ届出ヘシ

第十二條 貸座敷主ニ於テ不當ノ入費ヲ強ヒ或ハ謂レナク廢業又ハ寄留換セントスルヲ故障シ又ハ荷酷若クハ不正實ノ取扱ヲナストキハ其旨所轄警察官署ニ申出ヘシ

第十三條 氏名稱名ヲ改メ又ハ原籍ヲ轉シタルトキハ取締連署所轄警察官署ニ届出ヘシ

第三章 貸座敷引手茶屋

第十四條 貸座敷及引手茶屋ヲ開業又ハ他ノ免許地へ移轉セントスルトキハ取締人(移轉ハ現住地及移轉地ノ取締人)連署シ市町村長ノ檢印ヲ受ケ所轄警察官署ヲ經由シテ願出許可ヲ受

明治廿九年七月三十日  
令第九號  
同及第九號  
令第九號  
同及第九號  
正以テ更

クヘシ但新規ニ開業セントスル者ハ一區畫(下田町ヲ除ク)ヲナシタル免許地ノ外之ヲ許サス

第十五條 一區畫ヲ爲サル地ノ貸座敷及引手茶屋ハ左ノ規定ニ依リ家屋ヲ造築スヘシ(二十九  
年縣令第七十號ヲ以テ第十五條改正)

但工事着手前建築圖及宅地内其建物ノ位置ヲ示シタル圖而テ製シ所轄警察官署へ願出認可ヲ受クヘシ

一 道路ヨリ二間以上ヲ隔テ、家屋ヲ建設スルコト

一 道路ト敷地トノ境界ハ牆塼ノ類ヲ以テ道路ヨリノ見透ヲ遮斷スルコト

現在營業中ノ家屋ニシテ前項ニ適セサルモノハ五ヶ年以内ニ於テ落成期限ヲ定メ所轄警察署長ノ許可ヲ受クヘシ

警察官署ハ道路ヨリノ見透遮斷充分ナラスト認メタルトキハ修繕又ハ改造ヲ命スルコトアルヘシ

貸座敷及引手茶屋ニハ左ノ看板ヲ掲クヘシ

三尺五寸

九番號	屋號
貸座敷營業	姓名
引手茶屋	名

第十六條 貸座敷引手茶屋ハ同家屋ニ於テ宿屋ヲ兼業スルコトヲ許サス

警察職務

娼妓貸座敷等

第十七條 娼妓ヲ遇スルニハ誠實ヲ旨トシ無益ノ費用ヲ出サシムヘカラス又廢業ヲ留換セントスルニ方リ謂レナク故障スヘカラス

第十八條 娼妓規則ニ背クモノアリトモ決シテ私擅ノ處置ヲナスヘカラス速ニ所轄警察官署ニ申出其差圖ニ從フヘシ

第十九條 渡世上ニ係ル諸達類ハ篤ト娼妓ヘ示シ置ヘシ

第二十條 娼妓トノ契約ヲ變更シタルトキハ速署ノ上所轄警察官署ヘ届出ヘシ

第二十一條 遊客ノ住所氏名年齢及娼妓ノ氏名(又ハ稼名)揚代金等ヲ帳簿ニ記載シ警察官吏ノ檢閲ニ供スヘシ

第二十二條 強テ通行人ニ遊興ヲ勸メ又ハ種々ノ方法ヲ以テ客ヲ誘引シ若シクハ不當ノ遊興料ヲ食ルヘカラス但遊興料トシテ客ノ所有品ヲ受取ラントスルトキハ其客ト同伴シテ所轄警察署ニ至リ承認ヲ受クヘシ私ニ之ヲ受取ル可カラス

第二十三條 引手茶屋ニ於テハ娼妓又ハ遊客ヲ宿泊セシムヘカラス

第二十四條 代替リ改氏名及原籍若クハ寄宿所ヲ轉シタルトキハ取締連署所轄警察官署ヲ經由シ本廳ヘ届出ヘシ

第四章 娼妓貸座敷引手茶屋取締

第二十五條 娼妓貸座敷引手茶屋取締ハ免許地毎ニ二人(正副)又ハ一人ヲ置クモノトス

但渡世者少數ノ地ハ別ニ取締ヲ置カス最寄ニ適合スルモ妨ケナシ

第二十六條 取締ハ貸座敷引手茶屋中ヨリ撰舉シ所轄警察官署ノ認可ヲ受ヘシ但當撰者不適當ト認ムルトキハ改撰セシムルコトアルヘシ取締ノ任期ハ滿ニケ年トス

第二十七條 取締ノ取扱フヘキ條件左ノ如シ

- 一 娼妓貸座敷引手茶屋渡世上ノ諸願届ニ連署スルコト
  - 二 娼妓貸座敷引手茶屋渡世上ニ係ル諸達ヲ回達シ及諸務ヲ取扱フコト
  - 三 娼妓貸座敷引手茶屋ノ姓名簿ヲ製シ稼名屋號等級揚代額等ヲ詳記シ置クコト
  - 四 娼妓貸座敷引手茶屋渡世上ニ關シ總テノ取締ヲナスコト
- 第二十八條 娼妓他行セントスルモノアルトハ事情ヲ問糾シ左ノ承認證ヲ與フヘシ  
(承認證難形略ス)

第二十九條 娼妓貸座敷引手茶屋渡世上ノ諸願届書ニ對シテハ速署ヲ拒ムコトヲ得ス若シ意見アルトキハ別ニ添書ヲ以テ申出ヘシ

第五章 罰則

第三十條 第五條第十四條第十五條第十七條第十八條第二十二條ヲ犯シ及休業届出中渡世ヲナシタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

(明治廿九年縣令第七十號ヲ以テ追加)

第三十一條 第十一條第二十條第廿一條第廿三條第二十九條ヲ犯シタルモノハ二日以上五日以内ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第三十二條 第三條一項第九條第十條第十三條第十九條第二十四條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●縣令第三十七號 明治三十一年四月廿九日

左ノ地ハ自今娼妓貸座敷營業免許地トス

- 一 濱名郡濱松町字<sup>七反田、東上久、房前、一里塚</sup>
- 一 磐田郡見付町見付字西川尻
- 一 全 郡中泉町中泉字院內下
- 一 小笠郡掛川町下俣字十九首裏
- 一 全 郡大須賀村橫順賀字坂下ノ谷
- 一 榛原郡相良町福岡字濱山
- 一 全 郡金谷町金谷字南裏
- 一 志太郡藤枝町益津字<sup>藏前、釜出</sup>
- 一 全 郡島田町字祇園裏
- 一 田方郡網代村字寺町

### 第十六 料理店飲食店等

●縣令第三十六號 明治三十年六月廿四日

料理店、待合茶屋、芝居茶屋、遊船宿、貸席、藝妓屋、銘酒屋、飲食店營業ニ關スル取締規則  
左ノ通相定ム但明治廿三年十一月一 縣令第四十九號料理店、飲食店取締規則ハ廢止ス

料理店、待合茶屋、芝居茶屋、遊船宿、貸席、藝妓屋、銘酒屋、飲食店營業ニ關スル取締規則

第一條 料理店、待合茶屋、芝居茶屋、遊船宿、貸席、藝妓屋、銘酒屋、飲食店(鰯、鮓、天麩羅、煮賣、鳥獸肉、蕎麥、饅飩屋等ヲ云フ)營業ヲナサントスルモノハ願書ニ族籍住所氏名職業年齡等ヲ詳記シ所轄警察官署ヘ願出免許ヲ受クヘシ

第二條 營業ハ免許後ト雖モ公安若クハ風俗ヲ害スルノ行爲アリ又ハ他人ヘ名義ヲ假スノ事實アリト認メタルトキハ其免許ノ失効ヲ命スルコトアルヘシ

第三條 營業者族籍住所氏名等ニ異動ヲ生シ又ハ廢業シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ヘ届出ヘシ

第四條 料理店、待合茶屋、芝居茶屋、遊船宿、貸席、銘酒屋、藝妓屋、飲食店ニ客ヲ宿泊セシメ又ハ雇女ヲシテ藝妓ニ紛ラハシキ所業ヲ爲サシメ若クハ藝妓(藝妓屋ヲ除ク)ヲ宿泊セシムルコトヲ得ス但病氣其他止ムヲ得サル事故ノ爲メ宿泊セシメントスルハ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 料理店、待合茶屋、芝居茶屋、遊船宿、貸席、銘酒屋、飲食店ニ女子ヲ雇入タルハ族籍住所氏名年齢ヲ記シ五日以内ニ所轄警察官署ヘ届出ヘシ

一時ノ寄寓者ト雖モ雇人全様ノ業ヲ爲スモノ亦同シ

第六條 第一條ノ免許若クハ第四條但書ノ認可ヲ受ケス又第三條第五條ノ届出ヲナサス及第四條ニ違犯シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ料ニ處ス

附 則

第七條 従前ノ營業者ニシテ尙引續キ營業ヲ爲サントスル者ハ來ル七月三十一日迄ニ本則第一條ノ手續ニ依リ届出認可ヲ受クヘシ

第十七 湯屋宿屋等

●縣令第五十號 明治廿三年十一月十二日

明治廿年十月縣令第四百四號湯屋取締規則左ノ通り改定ス

湯屋取締規則

第一條 湯屋營業ヲナサントスル者ハ第四條ノ制限ニ依リ浴場火焚場烟出焚物置場火消場灰置場等ノ位置構造ヲ詳記セル圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ニ届出許可ヲ受クヘシ工事落成ノ上ハ警察官署ニ届出檢分ヲ經ルニアラサレハ開業スル事ヲ得ス其ノ位置構造ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二條 明治十六年十一月甲第九十六號布達賣藥營業手續第二條(藥湯)第三條(鑛泉中固形物)湯ノ花ト唱フル類或ハ幾分ノ鑛泉ヲ混合シ或ハ藥物ヲ加アルモノ)ニ違フヘキ營業者並ニ明治十六年十一月甲第一百五號布達ニ依リ海水又ハ鑛泉ヲ酌取リ浴湯若クハ蒸氣浴ヲ設ケントスル者ハ該免許ヲ受ケタル後更ニ第一條ノ手續ニ準シ所轄警察官署ニ届出許可ヲ受クヘシ

第三條 轉居代替改氏名若クハ廢業シタルトキハ速ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第四條 浴場其他ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ但桶風呂營業ハ此限ニアラス

一 浴場衣類置場ハ男女ヲ區別シ互ニ見透カサル襟境界ヲ設クヘキ事

- 二 火焚場烟出ハ不燃質物ヲ以テ構造シ烟出ハ内徑曲尺六寸以上トナシ屋上ハ曲尺三尺以上突出セシメ(金屬製ノモノハ其屋根ニ接スル所ニ石、土、煉化石等ノ不燃質物ヲ用ユ)其周圍曲尺六尺以内ハ不燃質物ヲ以テ覆葺スヘキヲ
- 三 焚物置場ハ火焚場ヨリ二間以上ノ距離ヲ取り又焚物小出場ハ火焚場ヲ距ル曲尺三尺以上ノ所ニ不燃質物ノ障壁ヲ建テ之レヲ設クヘキコト
- 四 火消場並ニ灰置場ノ構造ハ深サ曲尺三尺以上ノ坑穴トナシ各個隔日ノ使用ニ供スル爲メ中央ニ仕切ヲ設ク其蓋ハ不燃質物ヲ用ユヘキ事尤地質ニ依リ石、煉化石、漆喰、敲ノ類ヲ以テ地上ニ構造スルモ妨ケナシ
- 五 汚水溝及ヒ汚水溜ハ厚サ曲尺一寸以上ノ木材又ハ石、煉化石(繼目ニ漆喰ヲ用ユヘシ)若クハ漆喰、敲ヲ以テ構造スヘキ事
- 第五條 第二條ノ湯屋營業者ハ其主治効能浴法等ヲ場内見易キ所ニ揭示シ置クヘシ
- 第六條 浴場ハ男女混同セシムルヘカラス但小兒ハ此限ニアラス
- 第七條 浴場並ニ浴室溜室等ハ外面ヨリ見ヘサル様態又ハ其他ノ物ヲ以テ見隠ヲ設クヘシ
- 第八條 夜間營業ハ午後十二時限トス但烈風ノ節ハ此時間ニ拘ハラズ停業セシムル事アルヘシ
- 第九條 火消場並灰置場ノ周圍ニ焚物其他燃質物ヲ置クヘカラス
- 第十條 灰又ハ消炭ハ投抗後十二時間ヲ經過シ火氣消盡シタル後ニアラサレハ坑外ニ出ス可カラス

第十一條 浴湯、火焚場、烟出、天井裏等ハ毎月一回大掃除ヲナス可シ其掃除定日ハ豫テ所轄警察官署ニ届置クヲ要ス

- 第十二條 浴客ノ衣類物品等ハ特ニ寄托ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ
- 第十三條 警察官吏ハ臨時營業者ノ家宅ニ就キ浴湯、火焚場、烟出等ヲ檢分スル事アルヘシ
- 第十四條 第一條第二條ノ違反者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處シ第六條第七條第八條第十一條ノ違反者ハ一日ノ拘留又ハ五錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

●甲第百十五號 明治十六年十二月十九日

海水又ハ鑛泉ヲ酌取り浴湯若クハ蒸氣浴ヲ開キ營業セントスル者ハ溫度浴法一日ノ浴數一浴ノ時間湯水交換ノ期日及ヒ主治効能等ヲ詳記シ願出テ許可ヲ受クヘシ此旨布達候事

但是迄開設ノ分モ來ル十七年一月三十一日限り願出テ許可ヲ受クヘシ

●甲第三號 明治十七年一月十五日

溫泉場取締規則左ノ通相定本年二月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但當分ノ内田方郡熱海町熱海、及伊豆山、全郡修善寺村修善寺、全郡上狩野村吉奈、全郡川西村吉奈、賀茂郡稻生澤村蓮臺寺溫泉場ニ限り實施ス(二十九年縣令第六十四號ヲ以テ修正ス)

温泉場取締規則

- 第一條 温泉アル町村ニ於テハ其人民協議ノ上温泉場ノ區域ヲ定メ所屬警察署又ハ分署ヲ經由シテ届出認可ヲ受クヘシ
- 但區域ヲ變更セントスルトキ亦同シ
- 第二條 温泉宿營業者及温泉所有主ハ(引湯トモ)一温泉場區域毎ニ一組合トナシ正副取締ヲ撰定シ規約ヲ定メ所屬警察署又ハ分署ヲ經由シテ届出ヘシ
- 第三條 取締ハ其組合中ノ湯數字番泉名引湯元所有主等ヲ取調前條ノ手續ヲ以テ届出ヘシ但湯元引湯ヲ賣買譲與又ハ湯數増減アルト亦同シ
- 第四條 温泉場區域内ニ於テ温泉ヲ試堀セントスルモノ又ハ新ニ發見シ之ヲ使用セントスル者ハ其町村人民協議ノ上第一條ノ手續ヲ以テ届出認可ヲ受クヘシ
- 第五條 從來ノ温泉ヲ廢棄セントスルトキハ第二條ノ手續ヲ以テ届出ヘシ
- 第六條 第四條第五條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ故障スルコトヲ得ス
- 第七條 温泉場區域内ニ於テ新規池井溝渠等ヲ穿ツ爲メ地形ヲ變換セントスルトキハ所屬警察署又ハ分署ヘ申出見分ヲ受クヘシ
- 第八條 温泉浴室ハ清潔ヲ旨トシ汚穢物等ヲ洗滌ス可カラス

第九條 温泉ノ桶管等ハ不潔ナキ様注意シ破損所アルキハ速ニ修理スヘシ

第十條 此規則第一條第二條第四條第六條第七條第八條第九條ニ違背シタルモノハ刑法第四百

廿六條第四項ニ據リ處分ス(明治廿一年縣令第

●甲第八十號 明治十七年七月二日

鑛泉ヲ發見シタルトキ又ハ之ヲ使用セントスルトキハ左ノ手續ニ據ルヘシ此旨布達候事

但從來ノ發見又ハ使用ニ係ルモノト雖モ試驗未済ノ分ハ此布達ニ據ルヘシ

第一款 新タニ鑛泉(溫泉 冷泉)ヲ發見シタルトキハ私有地ハ其地主官有地ハ所屬戸長ヨリ左ノ件々ヲ詳記シ届出ツヘシ

- 一 鑛泉湧出所ノ町村字番
- 二 湧出所ノ地形地質
- 三 氣泡發生ノ有無
- 四 温泉冷泉ノ別
- 五 發見ノ年月日

第二款 第一款ノ鑛泉ヲ以テ浴場ヲ開キ營業セントスルモノハ左ノ方法ニ據リ鑛泉凡三升ヲ酌取リ試験ヲ願出テ許可ヲ受クヘシ

但之ヲ酌取リ營業セントスル者ハ本文手續ノ外明治十六年本縣甲第百十五號布達ニ準據ス

- 一 容器ハ硝子罎ヲ用ヒ砂ヲ以テ丁寧ニ之ヲ洗ヒ鑛泉ヲ以テ六時間以上之ニ盈シ置キ更ニ同泉ニテ洗フヘシ
- 二 酌取方ハ容器ヲ鑛泉中ニ沈メ之ニ盈シ同泉中ニテ堅ク「キルク」ヲ栓塞シ罎中空隙ヲ餘スヘカラス
- 三 罎口ヲ封蠟又ハ松脂ヲ以テ密閉シ其外面ヘ鑛泉ノ溫度(華氏攝氏列氏ノ別)何度ト記載スヘシ

●縣令第六十一號 明治廿三年十二月十九日

明治廿年ハ縣令第六十四號宿屋取締規則左ノ通改定ス

宿屋取締規則

第一章 通則

- 第一條 本則ニ於テ宿屋ト稱スルハ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス
- 第二條 宿屋營業ヲナサントスルモノハ其種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物坪數及ヒ構造ノ明細圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ其坪數構造ヲ變更シタルトキハ圖面ヲ添ヘ同官署ニ届出ヘシ
- 第三條 轉居代替改氏名若クハ廢業シタルトキハ速ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第四條 客室便所ハ左ノ制限ニ依リ構造スヘシ但木賃宿ニシテ事情止ムヲ得サルモノハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ク相當ノ構造ヲナスモ妨ケナシ

- 一 客室ハ充分ニ光線ヲ取リ且空氣流通セシムル事
- 二 層樓ノ客室十五坪以上アルモノハ幅曲尺三尺以上ノ扶欄付ノ階段二個以上ヲ設クル事
- 三 客室ニハ堅固ナル錠前付ノ押入又ハ戸柵ヲ設クル事
- 四 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル處ニ設ケ尿尿ヲ受容スヘキ部分ハ石葺キ又ハ陶器等ヲ用ユヘキ

第五條 左ニ掲クル所業ハ一切ナスヘカラス

- 一 種々ノ方法ヲ以テ旅客ノ宿泊ヲ求ムル事
- 二 宿泊料ノ抵償トシテ宿泊人ノ衣類物品ヲ私ニ差押ヘ又ハ取引ヲナス
- 三 宿泊人ノ承諾ヲ得スシテ他人ヲ其室内ニ入ラシムル
- 四 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ若クハ其求メナキ飲食物ヲ濫リニ供スル事
- 五 藝妓ヲ寄寓セシメ若クハ巫女等ヲシテ藝妓ニ紛ハシキ所業ヲナサシムル事
- 第六條 宿泊人ノ衣類物品等ハ特ニ委託ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ
- 出火其他ノ非常事變ハ速ニ宿泊人ニ通告シテ危難ヲ避シムヘシ
- 第七條 宿泊料其他ニ關スル緊要ナル事項ハ帳場及ヒ客室ニ揭示ス可シ
- 第八條 宿泊人疾病ニ罹リタルハ醫藥飲食物等其求メニ應シ懇切ニ取扱フヘシ若シ其病症ハ



種傳染病(虎列刺、鴨室扶斯、發疹室扶斯、赤痢、實布埤利亞)ノ疑ヒアルルハ所轄警察官署又ハ巡行ノ警察官吏ニ届出其指揮ヲ受クルニアラサレハ出發若クハ轉宿セシムルコト得ス  
宿泊人變死スルカ又ハ金錢衣類其物品等ノ紛失シタルルハ速ニ所轄警察官署若クハ巡行ノ警察官吏ニ届出ヘシ

第九條 外國人投宿シタルルハ其旅行免狀寫ヲ添ヘ速ニ所轄警察官署若クハ巡行ノ警察官吏ニ届出ヘシ

第十條 警察官吏ハ臨時營業者ノ家宅ニ就キ其構造及ヒ宿泊人名簿ヲ檢査スル事アルヘシ

第二章 旅人宿

第十一條 客室ハ宿泊人一名ニ付一坪ヲ下ル可カラス但同行者ハ此限ニアラス

第十二條 客室ノ番號並ニ定員ハ其室ノ出入口ニ揭示スヘシ

第十三條 左ノ雛形ニ依リ宿泊人名簿ヲ關製シ判明ニ記載シ所轄警察官署所在地ハ毎夜其他ノ場所ハ臨時巡行警察官吏ノ檢査ヲ受クヘシ但隊伍ヲナシタル軍人並ニ官立公立學校職員生徒ハ其隊號姓名及隊長職員官氏名外何名ト記載スルモ妨ナシ

(名簿表畧ス)

第三章 下宿屋

第十四條 下宿屋ハ濫リニ旅客ヲ宿泊セシムヘカラス

第十五條 下宿人投宿後廿四時間内ニ本人ノ住所族籍職業氏名年齢ヲ記シ連署ノ上所轄警察官署ニ届出尙ホ下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル標札ヲ其店頭又ハ門戸ニ揭示スヘシ

第十六條 下宿人退宿セシキ又ハ五日以上外宿シテ其ノ所在不明ナルトキハ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第四章 木賃宿

第十七條 木賃宿ハ所轄警察官署ニ於テ指定シタル場所ハ其區域内ノ外營業スルコト得ス

第十八條 宿泊人名簿ノ調製記載方並ニ檢査ニ係ル事ハ本則第十三條ニ從フヘシト雖モ外宿シタルモノアルトキハ其旨宿泊人名簿ノ備考欄内ニ記載シ置ヘシ

第五章 罰例

第十九條 第二條第五條第八條ノ違犯者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條第十三條第十四條第十五條第十八條ノ違犯者ハ一日ノ拘留又ハ五錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

附 則

一 本則第十七條ノ所轄警察官署ニ於テ指定ス可キ場所ハ伊豆國三島、下田、熱海、駿河國靜岡、沼津、江尻、藤枝、遠江國濱松、見附、掛川ノ各市町村トス

一 牛馬宿營業ハ本則第二條ニ依リ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ人家稠密ノ場所ニアリテハ營業スルコトヲ得ス

●縣令第四十五號 明治二十五年五月三十一日

富士休泊所及強力駕籠昇荷擔馬丁道案内營業取締規則左之通相定ム

富士休泊所及強力駕籠昇荷擔馬丁道案内營業取締規則

第一條 富士登山入ヲ目的トスル休泊所ヲ設クントスル者ハ其ノ構造ヲ詳記シタル圖面及地所賃渡ノ證ヲ添ヘ所轄警察官署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 休泊所ハ止宿人名簿ヲ備ヘ住所氏名年齢ヲ記載シ外國人投宿シタル時ハ旅行免狀ヲ寫置クヘシ

第三條 休泊料其他休泊ニ關スル緊要ノ事項ハ客室ニ揭示スヘシ

第四條 強力駕籠昇荷擔馬丁道案内等ノ業ヲナサントスルモノハ所轄警察官署ヘ願出證札ヲ受クヘシ

第五條 證札面ニ異動ヲ生シタルトハ届出訂正ヲ請フヘシ

第六條 名義ノ何タルニ拘ハラズ定額ノ賃錢外ニ金錢ヲ求ムヘカラス

### 第十八 人力車馬車

●縣令第六十三號 明治二十三年十二月廿日

明治廿年ハ縣令第六十六號人力車取締規則左ノ通改定ス

人力車取締規則

第一章 通則

第一條 人力車營業ヲナサントスルモノハ所轄警察官署ヘ願出免許證札ヲ受クヘシ

第二條 營業者親子ヲ雇ヒ置クトキハ其族籍住所氏名年齢ヲ所轄警察官署ヘ届出一人毎ニ證札ヲ受クヘシ

第三條 人力車ハ所轄警察官署ノ検査證ヲ有スルモノニアラサレハ使用スルコトヲ得ス其改造シタルトキ亦同シ

第七條 營業上規約ノ必要ヲ認メ之ヲ設ケタルトハ所轄警察官署ヘ届出認可ヲ受クヘシ

第八條 第一條第四條第六條ニ違反シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處シ第二條第五條ニ違反シタル者ハ五錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第四條 所轄警察官署ハ毎年一回車跡ノ検査ヲナシ検査證ニ捺印スヘシ

第五條 検査證アル車ト雖モ破損若クハ不潔ニ至ルヲ認ムルトキハ其使用ヲ差止ムルコトアルヘシ

第六條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察官署ニ申出書替又ハ再渡ヲ請フヘシ

- 一 轉居改氏名其他車跡検査證鑑札面ニ異同ヲ生シタルトキ
- 二 車跡検査證鑑札ヲ亡失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リシト

第七條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察官署へ届出且鑑札又ハ車跡検査證ヲ返納スヘシ

- 一 廢業又ハ輓子ヲ解雇シ及ヒ輓子ノ失踪逃亡若クハ死去シタルトキ
- 二 廢車又ハ賣渡シ讓渡シタルトキ

第八條 車跡検査證鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第九條 車跡検査證ハ車ノ蹴込正面ニ釘付スヘシ

第二章 就業及ヒ乗載制限

第十條 鑑札ハ就業ノ際之ヲ携帯スヘシ

第十一條 類冠リ鉢巻其他不躰戴形裝ヲナスヘカラス

第十二條 乗客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他車ニ乗セ替ヘ又ハ溢リニ駐車スヘカラス

第十三條 乗客ノ指定セサル旅舎其他ノ場所へ輓入ルヘカラス

第十四條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ強テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲナスヘカラス

第十五條 制止ヲ肯セスシテ出火場其他群集シタル場所へ輓入ルヘカラス

第十六條 溢リニ車ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲナスヘカラス

第十七條 夜中燈火ヲクシテ疾驅スヘカラス

第十八條 車ヲ並ヘ率テ行人ノ妨害ヲナスヘカラス

第十九條 通行及ヒ避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

- 一 車馬道ノ設ケアル場所ハ左側其設ケナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ
- 二 車馬及ヒ歩行者ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊並ニ砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ
- 三 實車ニ對シテハ空地之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
- 四 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ懸聲ヲナシ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ
- 五 二車以上引續キ行進スルトキハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ
- 六 街角ヲ過ルトキハ右ハ大回リヲナシ左ハ小回リヲナスヘシ

第二十條 乗客ニ對シ不當ノ賃錢ヲ強請シ又ハ何等ノ名義ニ係ハラス車賃外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第二十一條 一人乗ニ二人二人乗ニ三人以上ヲ乗載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第廿二條 長大ノ物品ニシテ行人ノ妨害トナルヘキモノハ乗載スヘカラス

第三章 駐車場

第廿三條 駐車場ヲ分チテ左ノ二種トス

- 一 公設駐車場 一般營業人ニ於テ駐車スヘキモノタイプ
- 二 私設駐車場 一人又ハ數人ニシテ設立シ其專用ニ屬スルモノヲ云フ

第廿四條 公設駐車場ハ之ヲ指定スヘキニ付標識ヲ設クヘシ私設駐車場ハ所轄警察官署ヘ届出標識ヲ建ツヘシ

第廿五條 乗用ニ供シ難キ人力車ハ駐車場ニ置クヘカラス

第廿六條 駐車場ノ外車ヲ置クヘカラス但乗客用辦ノ爲メ通行ノ妨害トナラサル場所ヘ駐車スルハ妨クナシ

第四章 罰例

第廿七條 第一條第二條第三條ヲ犯シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ廿錢以上壹圓廿五錢以下ノ科料ニ處ス

第廿八條 第八條第十二條第十三條第廿條ヲ犯シタルモノハ一日ノ拘留又ハ十錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第廿九條 第十四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス第十一條第廿二條第廿六條ヲ犯シ制止ヲ肯セサルモノ亦同シ第卅條第十五條第十六條第十七條第十八條ヲ犯シタルモノハ刑法第四百廿七條第四百廿九條ノ處分ニ從フ

附 則

營業者其地方ニ於テ組合ヲ設ク規約ヲ定メタルトキハ規約寫書ヲ添ヘ所轄警察官署ヘ届出ヘシ

●縣令第六十二號 明治廿三年十二月廿日

明治廿年ハ縣令第六十五號馬車取締規則左ノ通改定ス

馬車取締規則

第一章 通 則

第一條 馬車營業ヲナサントスルモノハ所轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ

第二條 營業者ハ馭者馬丁ノ族籍住所氏名年齢ヲ所轄警察官署ニ届出一人毎ニ鑑札ヲ受ヘシ但馭者ハ馭術ニ熟達スル者ニ限ルヘシ

第三條 營業者自ラ馭者馬丁ノ業ヲナサントスルトキハ總テ馭者馬丁ノ例ニ從フヘシ

第四條 車体及馬匹ハ所轄警察官署ノ検査證ヲ有スル者ニ非サンハ使用スルコトヲ得ス其車体ヲ改造シタルトキ亦同シ

- 第五條 所轄警察官署ハ毎年一回車體及馬匹ノ検査ヲ行シ検査證ニ捺印スヘシ
  - 第六條 検査證アル車馬ト雖モ車體器具ノ破損若クハ不潔ニ至リ又ハ馬匹疾病衰弱ノ狀アルヲ認ムルトキハ其使用ヲ差止ムルコトアルヘシ
  - 第七條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察官署ニ申出書替又ハ再渡ヲ請フヘシ
    - 一 轉居改氏名其他車馬検査證鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキ
    - 二 車馬検査證鑑札ヲ亡失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リシトキ
  - 第八條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察官署ニ届出且鑑札又ハ車馬検査證ヲ返納スヘシ
    - 一 廢業又ハ馭者馬丁ヲ解僱シ及馭者馬丁失踪逃亡若クハ死去シタルトキ
    - 二 車馬ノ使用ヲ廢止シ又ハ賣渡シ讓渡シタルトキ
  - 第九條 検査證鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス
  - 第十條 馬車ヲ運轉スルニハ馭者馬丁ヲ欠クヘカラス但往來頻繁ナラサル地ニ於テハ一頭立馬車ニ限り馬丁ヲ欠クコトヲ得
  - 第十一條 乗客ノ員數ハ車體馬力ニ應シ之ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受ク車體内部ノ見易キ所ニ掲出スヘシ
  - 第十二條 車體検査證ハ車體内部ヲ見易キ所ニ釘付スヘシ
- 第二章 馭者馬丁就業及乗載制限

- 第十三條 鑑札及馬匹検査證ハ就業ノ際之ヲ携帯スヘシ
- 第十四條 頰冠リ鉢巻其他不躰裁ノ形装ヲナスヘカラス
- 第十五條 馭者ハ馬車ヲ離ルヘカラス但馭者止ムヘカラサル事故アルトキハ馬丁ヲシテ馬車ノ看守ヲナサシム
- 第十六條 乗客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他車ニ乗セ替ヘ又ハ濫リニ駐車スヘカラス
- 第十七條 制止ヲ肯セスシテ出火場其他群集ノ場所ヘ馬車ヲ引入ルヘカラス
- 第十八條 他人ヲシテ馬ヲ御セシムヘカラス
- 第十九條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ強テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲナスヘカラス
- 第二十條 濫リニ馬車ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲナスヘカラス
- 第二十一條 夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス
- 第二十二條 馬車ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲナスヘカラス
- 第二十三條 馬匹ハ殘虐ニ使用スヘカラス
- 第二十四條 通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ
  - 一 馬車ハ中央ヲ進行シ車馬及列伍葬送等ニ行逢フトキハ左ニ避ク軍隊並砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

- 二 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ク坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
  - 三 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲナシ前車ハ左ニ避ク後車ハ右ヲ通過スヘシ
  - 四 二車以上引續キ行進スルトキハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ
  - 五 往來雜踏又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ相當ノ相圖ヲナシ馬丁ヲシテ前行セシムヘシ
  - 六 街角ニ於テハ右ハ大廻リヲナシ左リハ小廻リヲナスヘシ
- 第廿五條 乘客ニ對シ不當ノ賃錢ヲ強請スヘカラス
- 第廿六條 定員外ノ乘客ヲ載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノモノハ定員外トス
- 第廿七條 左ニ記載シタルモノハ客席ニ乘載スヘカラス
- 一 獸類
  - 二 汚穢物其他惡臭ヲ發シ若クハ汚染ノ虞アル物品
- 第廿八條 馭者臺ニ客ヲ乘載シ又ハ屋根ニ物品ヲ載スヘキ構造ヲナスシテ物品ヲ載スヘカラス

第三章 駐車場

第廿九條 駐車場ハ所轄警察官署ニ届出標識ヲ建ツヘシ

- 第三十條 駐車場ノ地盤ハ石敲キ又ハ板ヲ敷キ且馬尿溜ヲ設クヘシ
- 第卅一條 駐車場ハ日々掃除ヲナシ常ニ清潔ナラシムヘシ
- 第卅二條 駐車場ノ外車馬ヲ置クヘカラス

第四章 罰例

- 第卅三條 第一條第二條第四條ヲ犯シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓廿五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第卅四條 第九條第十條第十五條第十六條第十八條第廿五條第廿六條ヲ犯シタルモノハ一日ノ拘留又ハ十錢以上貳圓以下ノ科料ニ處ス
- 第卅五條 第十九條第廿七條ヲ犯シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス第十四條第廿三條第廿八條第卅二條ヲ犯シ制止ヲ肯セサルモノ及第卅一條ニ違ヒ督促ニ從ハサルモノ亦同シ
- 第卅六條 第十七條第廿條第廿一條第廿二條ヲ犯シタルモノハ刑法第四百廿七條第四百廿九條ノ處分ニ從フ

第十九 牛 馬

●縣令第七十二號 明治廿六年十二月廿四日

牛馬及牛馬賣買營業取締規則左ノ通相定ム

牛馬及牛馬賣買營業取締規則

第一條 牛馬ヲ購入交換又ハ讓受クタルルハ種類(和洋雜種ノ別)產地、使用ノ目的(乘馬、駝馬、馬車馬、耕馬、牧牛、耕牛、乳牛等)年齡、寸尺、毛色、別徴(先天白斑、后天白斑、斑、及烙印、縹皮等)牝牡等ヲ記シ七日以内ニ又賣却讓與又ハ孕畜分娩シタルルハ(分娩ハ種類牝牡、毛斑點等ヲ記シ)十日以内ニ市ニ在リテハ市役所、町村ニ在リテハ其町村役場ヲ經由シ所轄警察官署ヘ届出ヘシ(明治廿八年縣令第一號ヲ以テ修正)

第二條 牛馬賣買營業者ハ賣買交換明細簿ヲ設ケ之ニ左ノ事項ヲ詳記シ警察官吏ノ求メアルト

キハ何時ニテモ其檢閱ニ供スヘシ

一 牛馬ノ種類(和洋雜種ノ別)年齡、寸尺、產地、毛色、別徴、牝牡

二 賣買交換ノ年月日及賣買交換主ノ住所氏名

三 價額

四 賣却交換等ノ場合ニ於テ獸醫ノ診斷書ヲ付シタルルハ其診斷ノ年月日及獸醫ノ氏名

本條ノ明細簿ハ滿五ヶ年間保存スヘシ

第三條 牛馬賣買及交換ノ際購入者又ハ交換受取人ニ於テ其牛馬ニ疾病及固有ノ欠點(畸形等)

ノ有無ヲ證明スル爲メ獸醫ノ診斷書ヲ求メタルトキハ之レヲ付與スヘシ

第四條 獸類傳染病(炭疽熱、鼻疽、皮膚傳染性腫、流行ノ際ニアリテハ其流行地ハ勿論流行地方ヲ經又

ハ流行地ニ接壤シタル府縣ヨリ輸入シタル牛馬ナルトキハ到着ノ日ヨリ三日以内ニ獸醫ニ診

斷セシメ診斷ノ日ヨリ更ニ一週間ヲ經過シタル後ニアラサレハ賣買交換ヲナシ又ハ他ノ牛馬

ト共ニ使用シ若シハ雜居セシメ又ハ他ノ地方ヘ輸送スルヲ得ス但牛疫流行ノ場合ハ特ニ其取

締規定ニ依テ處分スルモノトス

前項ノ牛馬賣買交換ノ場合ニ於テ購入者又ハ交換受取人ヨリ獸醫ノ診斷書ヲ求メタルトキハ

之レヲ付與スヘシ

第五條 牛馬賣買及交換ノ際其營業者ナルト否トニ拘ハラズ購入者又ハ交換者ノ求メナキニ其

賣買交換ニ立會ヒ換抄金等ノ名義ヲ以テ金錢ヲ求ムルヲ得ス

第六條 牛馬賣買營業者ハ牛馬飼養者ニ於テ自養ノ牛馬ヲ賣却、交換、讓與、讓受又ハ購入セ

ントスルニ際シ其牛馬賣買營業者ニ非ラサル等ヲ口實トシ之レニ干與シ金錢ヲ求メ又ハ飲食

ヲ食ルコトヲ得ス

第七條 第四條第一項第九條ニ違犯シ又ハ偽造ニ非ラサルモ虛偽ノ診斷書ヲ付與シタル者ハ三

日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス第五條第六條ニ違

犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス第一條第二條ニ違犯シタル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス(明治廿九年縣令第八十六號ヲ以テ追加)

附 則

第八條 現在飼養ノ牛馬ハ明治二十七年一月三十一日迄ニ第一條ノ手續ヲナスヘシ

第九條 牛馬賣買營業ヲ爲サントスルモノハ願書ニ住所氏名年齢身分ヲ記載シ所轄警察官署ヘ

願出鑑札ヲ受クヘシ

家族又ハ雇人(同居ノ者ニ限ル)ヲシテ牛馬ヲ曳カシメントスル者ハ前項ノ手續ニ依リ鑑札ヲ携帶セシムヘシ

現在ノ營業者ハ來ル三十年一月十日マテニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ(二十九年縣令第八十六號ヲ以テ追加)

●縣令第二十七號 明治廿二年三月八日

牛馬市取締規則左ノ通り相定ム

牛馬市取締規則

第一條 牛馬市ヲ開設セントスル者ハ第二條ノ各項ニ抵觸セサル場所ヲ撰ヒ願書ニ圖面ヲ添ヘ開場敷地ノ地主並ニ隣地所有主連署ノ上戸長ノ捺印ヲ受ク所轄警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 左ノ諸項ニ觸ル、場所ハ開場ヲ許サス

但先例等ニ依リ止ヲ得サルモノハ此限ニアラス

- 一 御陵墓ニ近接シタル地
  - 二 官國幣社ニ近接シタル地
  - 三 飲料水ノ水源及其水道ニ近接シタル地
  - 四 學校及病院ヲ隔ル(外國ヨリ)一町以内
- 第三條 市場内牛馬ノ繫柱等ハ最堅牢ニ構造シ逸走其他危險ノ怖レナキ様注意スヘシ
- 第四條 市場ノ牛馬傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ市場ヲ中止シ且警察官吏ノ指揮ニ依リ相當ノ豫防ヲ爲シタル上ニアラサレハ總テ退場セシムヘカラス
- 但傳染症ニ非サル疾病ト雖モ總テ病牛馬ハ場内ニ置クヘカラス
- 第五條 市場ニ關スル申合セ又ハ規約等ハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受クヘシ
- 第六條 此規則第一條第三條第四條第五條ニ違犯シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス



第二十一 舟筏等

●縣令第四十號 明治廿四年八月十一日

明治廿三年三月三縣令第十四號富士川通船營業取締規則左ノ通之レヲ改定ス

富士川通船營業取締規則

- 第一條 富士川通船水夫營業ヲサントスル者ハ所轄警察官署へ届出鑑札ヲ受クヘシ但件乘ハ滿十五年以上小船頭ハ滿十二年以上ノ者トス
- 第二條 轉居改氏名又ハ鑑札檢査證等ヲ遺失毀損シタルトハ速ニ所轄警察官署ニ届出書換ヲ請ヒ廢業シタルトハ届出ヘシ
- 第三條 營業ニ關スル願届書ニハ取締人ノ加印ヲ受ケ差出スヘシ
- 第四條 營業用ノ船艇(屬具トモ)ハ使用前持主ヨリ所轄警察官署へ申出檢査ヲ受クヘシ
- 第五條 營業用ノ船艇ハ滿一ヶ年毎ニ更ニ檢査ヲ受クヘシ但警察官ハ臨時ニ檢査スルコトアルヘシ
- 第六條 檢査證ハ船内見易キ所ニ釘付スヘシ
- 第七條 船艇一艘ノ水夫ハ四人以上トス若シ件乘リ及小船頭ヲ乘船セシメントセハ各一人ヲ限リ乘船セシムヘシ
- 第八條 鑑札ハ營業中必ス携帶スヘシ且他ニ貸借讓與スルヲ許サス

第九條 白痴瘋癲人ハ水夫タルヲ得ス

第十條 船艇壹艘ノ積量ハ乗客十五人貨物ハ三百貫目ヲ超過スヘカラス但七歳以上十二歳未滿ハ二人ヲ一人ト看做シ七歳未滿ハ定員外トス

第十一條 乗客ト貨物ヲ併載セントスルトハ一人ニ付二十貫目ノ割合ヲ以テ貨物ノ量ヲ控除スヘシ

第十二條 乗客ノ手荷物合量二十貫目以上ニ及フトハ前條ニ準シ乗載スヘシ

第十三條 下リ船ハ猷澤南部岩淵巡査派出所又ハ駐在所ニ上リ船ハ岩淵南部猷澤巡査派出所又ハ駐在所ニ乗客員數及貨物送狀ヲ差出シ積荷ノ檢査ヲ受クヘシ

第十四條 夜間又ハ出水其他危險ノ虞アルキハ出船スヘカラス又常水ノ時ト雖モ乗客ニ於テ危險ト認メ上陸回避センコトヲ望ミタルキハ速ニ之レニ應スヘシ

第十五條 通船互ニ行逢フキハ堅ク慣習ヲ守リ衝突ノ危難ヲ避クルヲ勉ムヘシ又航運中他人ノ危難ヲ認メタルトハ速ニ協力救助スヘシ

第十六條 航運中故ナク停船シ又ハ強テ乘船ヲ勸メ若クハ名義ノ何タルヲ問ハズ定額外ノ金銭ヲ求ムヘカラス

第十七條 乗客ハ都テ叮嚀ニ取扱ヒ苟モ侮慢ノ所爲アルヘカラス就中發病者アリタルトハ懇切

ニ取扱ヒ傳染病者ナルハ直ニ届出ヘシ

第十八條 乗客上陸ノ際ニハ遺留品ナキヤニ注意シ若シ之レアリタルハ其主不分明ナレハ直ニ最寄警察官署へ届出ヘシ

第十九條 火藥其他劇發物ヲ乗載シタルハ旅客ヲ乗船セシムヘカラス

第二十條 客船ハ不潔ナラサル様掃除シ傳染病其他乗客ニ於テ厭忌スル病狀アルモノ又ハ看護人ナキ瘋癲者并ニ亂醉者其他其數臭氣ヲ發スル汚穢物等ハ乗載スヘカラス

第二十一條 營業者ハ所轄警察官署ノ管轄ヲ以テ一區域トシ營業者中ヨリ取締一名ヲ公撰ソ所轄警察官署へ届出ヘシ

第二十二條 乗客ノ賃錢貨物ノ運賃ハ營業各區域ニ於テ一定シ所轄警察官署ニ届出ヘシ其變更セントスルハ亦同シ但賃錢定額表ハ船中見易キ處ニ掲ケ置クヘシ

第二十三條 取締人ハ其区域内ノ營業者營業上ノ諸般ニ注意シ不都合無之様取締ヲナスヘシ

第二十四條 警察官ニ於テ取締人其任務ニ不適當ト認メタルハ改撰セシムルコトアルヘシ

第二十五條 取締人ハ其区域内營業者ノ名簿ヲ備ヘ及諸達命令等ノ書類ヲ保存シ更任ノ際ハ後任者へ引繼クヘシ

第二十六條 各取締人ノ事務ニ屬スル賃費并ニ報酬ハ其区域内營業者負擔スヘシ

第二十七條 營業上規約ノ必要ヲ認メ之レヲ設ケタルハ所轄警察官署へ届出認可ヲ受クヘシ

第二十八條 第一條第四條第五條ニ違犯シ又ハ第廿六條ニ違背シ區域外ノ者ヨリ口實ヲ設ケテ

徴金シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處シ第十

六條第十九條ニ違犯シ又ハ第十四條ニ違ヒ夜間又ハ出水ノ際出船シタルモノハ一日以上三日

以下ノ拘留又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處シ第七條第十條第十一條第十二條第

十三條第廿二條ニ違犯シタルモノハ一日ノ拘留又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

◎縣令第二十七號 明治二十七年四月十五日

大井川貨物運送營業取締規則左ノ通相定ム

大井川貨物運送營業取締規則

第一條 大井川貨物運送營業トハ船艇ヲ使用シテ貨物ノ運送ニ從事スルヲ云フ

筏ヲ用ヒ本業ニ從事スルヲ得ス(明治廿七年十一月縣令第六十號ヲ以テ追加)

第二條 前條ノ營業ヲナサントスル水夫ハ族籍住所氏名年齢及本業ニ從事シタル事アルヤ否ヤヲ記載シタル届書ヲ所轄警察官署ニ差出鑑札ヲ受クヘシ

第三條 轉居改氏名又ハ鑑札ヲ亡失毀損シタルハ速ニ届書書換又ハ再下付ヲ請ヒ廢業シタルハ鑑札ヲ返納スヘシ

第四條 鑑札ハ營業中必ス携帶スヘシ又貸借若クハ讓與等ヲナスヲ得ス

第五條 年齡十八年未滿(小水夫ニ限リ滿十二年未滿)ノ者及白痴瘋癲者ハ水夫トシテ鑑札ヲ受ルヲ得ス

第六條 營業者ハ取締人一名(若シ必要アレハ副取締人若干名)ヲ撰定シ島田金谷兩警察分署ヘ届出ツヘシ

取締人ハ營業者ノ願届書等ニ連署スヘシ

第七條 島田金谷兩警察分署ハ取締人不適當ト認メタルトキハ改撰ヲ命スルヲアルヘシ

第八條 營業用ノ船艇ハ(屬具トモ)使用前持主ヨリ所轄警察官署ヘ届出檢査ヲ受ク爾後滿一年毎ニ檢査ヲ受クヘシ但警察官ハ臨時ニ檢査スルヲアルヘシ

檢査済ノ船艇ハ檢査證ヲ船内見易キ所ニ釘付スヘシ

第九條 船艇積量乗客員數及水夫乗組人員ノ割合ヲ定ムルヲ左ノ如シ

一 上リ船乗客員數	同船山上水夫四人乗 同船山上水夫三人乗 同船上下水夫三人乗	乗客四十二人マテ 乗客三十四人マテ 乗客二十五人マテ
一 下リ船乗客員數	同船山上水夫四人乗 同船上下水夫三人乗 同船上下水夫二人乗	乗客四十三人マテ 乗客三十八人マテ 乗客三十二人マテ

一 上リ船登艘ノ積量	同船山上水夫四人乗 同船上下水夫三人乗 同船上下水夫二人乗	四百五十貫目マテ 三百四十貫目マテ 三百五十貫目マテ
一 下リ船登艘ノ積量	同船山上水夫四人乗 同船上下水夫三人乗 同船上下水夫二人乗	六百貫目マテ 五百三十貫目マテ 四百五十貫目マテ

一 上リ船乗客員數

同船山上水夫四人乗  
同船山上水夫三人乗  
同船上下水夫三人乗

乗客四十二人マテ  
乗客三十四人マテ  
乗客二十五人マテ

一 下リ船乗客員數

同船山上水夫四人乗  
同船上下水夫三人乗  
同船上下水夫二人乗

乗客四十三人マテ  
乗客三十八人マテ  
乗客三十二人マテ

乗客ト貨物ヲ併載セシトスルトキハ一人ニ付十四貫目ノ割合ヲ以テ貨物ノ量ヲ控除スヘシ

乗客七歳以上十二歳未滿ハ二人ヲ一人ト看做シ七歳未滿ハ定員外トス

客ノ手荷物ハ合量二十貫目マテトシ其以外ニ及フモハ貨物ノ量ヲ控除スヘシ但乗客ノミナルトキハ十貫目ニ至リ一人ヲ控除スヘシ

第十條 船艇乗組ノ水夫ハ其内一名ヲ水夫長トシ航運ニ關スル指揮ヲ掌ルヘシ但水夫長ハ滿二十五年以上ノ者トス

水夫長ハ乗組水夫ノ年齢ヲ取調十二年以上ノ小水夫ハ水夫四人乗リニ限リ一艘一名ノ外乗船セシムルヲ得ス又經驗ノ有無ニ拘ハラズ無鑑札ノ者ヲシテ定員トナスヲ得ス但航運中水夫ニ缺員ヲ生シ補缺トシテ臨時雇入ル、者ハ此限リニアラスト雖モ一回限リニシテ次回ノ航運ニ繼續スルヲ得ス

第十一條 乗客ノ貨物運賃ノ運賃ハ之レヲ一定シテ所轄警察官署ヘ届出ツヘシ其變更シタルト

亦同シ但賃錢定額表ハ船中見易キ處ニ掲クヘシ

第十二條 夜間又ハ出水其他危險ノ虞アルトハ出船スルヲ得ス

第十三條 航運中故ナク停船シ又ハ強テ客船ヲ勸メ若クハ名義ノ何タルヲ問ハズ定額外ノ金錢ヲ要求スルヲ得ス

第十四條 客船ニハ看護人ナキ瘋癲者又ハ亂醉者若シクハ火藥其他劇發物又ハ臭氣ヲ發スル汚穢物若シクハ牛馬羊豕又ハ病アル猫犬等ヲ乘載スルヲ得ス但乘客ナキトハ此限リニアラス

第十五條 上リ船下リ船共ニ指定ノ改船所ニ乗客員數書又ハ貨物ノ送狀ヲ差出シ積量ノ検査ヲ受クヘシ

改船所ハ榛原郡下川根村家山及志太郡大長村相賀ノ兩所トス但相賀ノ改船所ハ家山改船所ノ下流ヨリ發船セシモノニ限リ検査スルモノトス

第十六條 營業上ニ關スル規約ヲ締結シタルモハ島田金谷兩警察分署へ届出認可ヲ受クヘシ

第十七條 第一條第二項第二條第十二條第十三條ニ違反シタル者ハ二日以上五目以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス第四條ニ違反シテ鑑札ヲ貸借又ハ讓與シ又ハ第八條第一項第九條第十條第十四條第十五條ニ違反シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二拾錢以上一圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス第三條第八條第二項第十條第一項

第十一條第十六條ニ違反シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス  
(明治廿七年十一月縣令第六十號ヲ以テ本條中追加)

●縣令第七十八號 明治二十九年十一月廿六日

大井川木材川狩取締規則左ノ通相定ム

大井川木材川狩取締規則

第一章 通則

第一條 本則ハ大井川本支流ニ於ケル木材川狩ニ適用ス

第二條 本則ニ「サワツケ」ト稱スルハ木材ヲ水流ニ付スルヲ云ヒ川狩ト稱スルハ方言「バラガリ」「クダナガシ」「ボクナカシ」ノ類ヲ云フ

第三條 榛原郡上川根村千頭渡船場ヨリ百間ノ上流ヲ以テ境界トシ其以上ヲ第一流區トシ其以下ヲ第二流區トス

第二章 極印切判及「サワツケ」

第四條 大井川ノ水流ヲ利用シテ運搬セントスル木材ニハ一定ノ極印ヲ打チ又ハ切判ヲ刻入スヘシ

極印又ハ切判ノ字跡又ハ形跡ハ沿岸警察署へ届出テ置クヘシ

第五條 毎年三月十五日以後九月廿日以前ニ「サワゾク」ヲ爲スヲ得ス

第六條 積筏、組筏其他工事用ノモノヲ除ク外川岸ニ木材ヲ出スコトヲ得ス

前項ノ目的ヲ以テ木材ヲ川岸ニ出ス場合ト雖トモ毎年四月一日ヨリ九月二十日マテハ五日以上川岸ニ之ヲ置クコトヲ得ス

第三章 川狩及其期限

第七條 川狩ニ付セントスル木材ノ員數ハ一回三千尺以上二萬尺以下トス但終回ノ川狩ニシテ二萬尺以外ニ三千尺未滿ノ端數アルトキハ併セ狩下クルヲ得  
三千尺未滿ハ川狩ヲ爲スヲ得ス

第八條 川狩ヲ爲サントスルモノハ木種員數人夫ノ人員及宰領人ノ氏名ヲ記載シ第二流區川狩着手ニ豫メ島田警察署長ニ届出認可ヲ受クヘシ

第九條 川狩人夫(專ラ川狩ニ從事スル者ヲ云フ)及宰領人ハ左ノ割合ヨリ以下ニ減スルヲ得ス

- 一 木材三千尺以上付川狩人夫五拾人
- 一 同 三千尺以上一萬尺未滿ハ百五十尺毎ニ一人以上ヲ増加ス
- 一 同 一萬尺以上一萬五千尺未滿ハ二百尺毎ニ一人以上ヲ増加ス
- 一 同 一萬五千尺以上二萬尺未滿ハ二百五十尺毎ニ一人以上ヲ増加ス
- 一 宰領人ハ木材ノ多寡ニ拘ハラズ正副二人以上トス

前項川狩人夫ノ割合ハ各制限未滿ノ端數ニ付テモ尙一人ヲ増加スルモノトス

第十條 川狩ハ第二流區ニ於ケル狩下ク及陸上ク日數トモ一回三十日ヲ超過スルヲ得ス

第十一條 川狩期限ハ第一流區第二流區トモ毎年十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第四章 通船、橋梁其他建造物ニ對スル義務

第十二條 川狩宰領人ハ各自身木鼻又ハ大尻其他適當ノ位置ニ居リ通船又ハ筏ノ來ルヲ注視シ又ハ自己ニ代ル人夫ヲシテ之ヲ注視セシメ其船筏ヲ認メタルトハ即時航通ノ針路ニ當ル木材ヲ片寄セ同時ニ之レヲ乗組水夫ニ通告シ且成ヘク人夫ヲ分チ船筏ノ進航ニ助力シ速ニ通過セシムヘシ

第十三條 堤防、水刳、橋梁、水閘其他建造物アル地ヲ狩下クントスルトハ橋臺開口及ヒ堤防、水刳其他建造物ニ對シテハ適當ノ位置ニ人夫ヲ配置シテ木材ノ衝突ヲ防衛スヘシ

第五章 流 材

第十四條 「サワゾク」期限外ニ誤テ第一第二流區本支流又ハ「サワ」ニ入りタル木材ハ三日以内ニ運搬ニ着手シ漂流ノ虞ナキ地ニ取片付クヘシ第一流區本支流ノ上流ニ於テ墜落シタル木材ハ同期限内ニ着手シ第一流區ノ境界ニテ狩下ク取片付クルヲ得

第十五條 出水ノ際堤防、水刳又ハ水閘等防衛ノ爲メ必要ト認メタルトキハ所轄警察署長分署

長ハ水防委員ヲシテ流材ヲ適宜ノ地ニ繋留セシムルコトアルヘシ

水防委員ハ前項ノ命ヲ受ケタルトキハ速ニ人夫ヲ配置シテ流材ヲ繋留スヘシ

第十六條 前條ニ依リ繋留シタル木材ノ持主ハ三十日以内ニ繋留ノ手数料ヲ繋留人ニ支拂ヒ木材ヲ引取ルヘシ其手数料ノ額ハ豫メ協議ノ上之ヲ定メ所轄警察官署ヘ届ケ置クヘシ

前項持主トハ極印又ハ切判ニ依リ其持主ノ判明セルモノニ限ル

第十七條 木材ノ持主前條ノ期限内ニ手数料ヲ支拂ヒ木材ヲ引取ラサルトキ若クハ持主ノ知レサル場合及繋留シタル木材ニシテ極印又ハ切判ナキモノハ繋留人ニ於テ速ニ明治九年<sup>七月</sup>本縣

甲第三十七號布達ニ依リ所轄警察官署ヘ届出ツヘシ

第十八條 水防委員ハ出水ノ時期ニ於テ漂流ノ虞アル木材ヲ川岸ニ認メタルトキハ速ニ所轄警

察官署ヘ申告スヘシ

第十九條 所轄警察官署ハ川岸ニ於テ漂流ノ虞アル木材アルヲ認メタルトキハ日時ヲ指定シテ之カ取片付ヲ持主ニ命スルコトアルヘシ

第六章 罰則

第二十條 第五條第六條第八條第十條第十二條第十三條及第十四條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ二日以上十日以下ノ拘留ニ處ス第七條第九條ノ制限ヲ犯シ第十一

條ノ期限外ニ川岸ヲナシ又ハ第十九條ノ命令ニ違犯シタル者亦同シ

第四條第二項ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●縣令第八號 明治三十一年一月廿八日

大井川筏乘營業取締規則左ノ通相定ム

大井川筏乘營業取締規則

第一條 大井川筏乘營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名年齢ヲ詳記シタル届書ヲ所轄警察官署ヘ差出鑑札ヲ受クヘシ

第二條 轉居改氏名又ハ鑑札ヲ亡失毀損シタルトハ速ニ届出書替又ハ再下付ヲ請ヒ廢業シタルトキハ鑑札ヲ返納スヘシ

第三條 鑑札ハ營業中必ラス携帯スヘシ又貸借若クハ譲與等ヲ爲スヲ得ス

第四條 筏一艘ノ材數ハ左ノ制限ニ超過スヘカラス

- 一 雜木 二十二尺以内
- 一 杉檜長丸太 延幅員二間二尺以内
- 一 杉檜 木材二十五尺以内
- 一 竹六寸廻リ以上 二百本以内
- 一 束竹 五十束以内

一 六分板 百五十間以内  
 一 板子(六分間) 百間以内  
 一 四分板 二百間以内  
 其他ノ雜種ハ前項材數制限ヲ標準トシ積算スヘシ

第五條 特種ノ方法ニ由リ乗下クテ爲サントスル筏ノ材數前條ノ制限ニ超過スルトハ其方法ヲ詳記シ島田分署長ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 筏乗組人ハ一艘ニツキ二人以上乗込ニアラサレハ乗下クテ爲スヘカラス

第七條 筏ノ上荷ニ乗客又ハ合計五貫目以上ノ貨物ヲ搭載スルトテ得ス但筏乗業者ニシテ其業務ノ往復途中ニアルモノ及組紐シテ筏ト爲ステ得ル小割物又ハ其材ヨリ剝離シタル杉皮ノ類ハ此限リニアラス

第八條 筏乗業者ハ自己ノ採伐シタル木材ナルト否トニ拘ラス切判徽號又ハ極印ナキモノハ之レヲ筏ニ組ムヘカラス

第九條 組筏用ノ木材山出ニ際シ止テ得ス通路ヲ横斷スルトハ交通ヲ妨害セサル設備ヲ爲スニアラサレハ之レヲ搬出スルトテ得ス

第十條 堤防橋梁其他ノ建設物ヲ障害スルノ虞アル箇所又ハ通航若クハ川狩ヲ妨クル箇所ニ筏ヲ繋留スルトテ得ス但止テ得サル事情アリテ繋留セントスルモハ堤防其他建設物ニ對シテハ

相當ノ防備ヲナシ通航及川狩ニ對シテハ通航二艘併行スルニ妨クナキ餘地ヲ存置スヘシ

第十一條 營業人ハ取締人一名(若シ必要アレハ副取締人若干名)ヲ撰定シ島田金谷兩分署へ届出ヘシ

取締人ハ營業人ノ願届書ニ連署スヘシ

第十二條 營業上ニ關スル規約ヲ締結シタルモハ島田金谷兩分署へ届出認可ヲ受ヘシ

第十三條 第一條ノ鑑札第五條ノ認可ヲ受ケス第七條ノ本文又ハ第九條第十條ニ違反シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス第三條第四條ノ制限ニ違ヒ又ハ第六條第八條ニ違反シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス第二條ニ違反シタルモノハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

●縣令第三十五號 明治廿七年五月十五日

天龍川貨物運送營業取締規則左ノ通相定ム

天龍川貨物運送營業取締規則

第一條 本則ハ天龍川貨物運送ヲ營業セントスル回漕店、回漕船持主及水夫ニ適用ス

第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスルモノハ左記ノ例ニ依リ營業届書ヲ所轄警察官署へ差出認可ヲ受クヘシ但水夫營業鑑札ヲ受クルモノトス

- 一 回漕店ハ届書ニ族籍住所姓名及屋號ヲ記載スヘシ但會社ハ社長ヨリ届出ルモノトス
- 一 回漕船ノ持主ハ族籍住所氏名ノ外回漕船ノ員數及各船構造ノ年月ヲ記載スヘシ
- 一 水夫ハ族籍住所氏名ノ外年齢及本業ニ従事シタルコトアルヤ否ヲ記載スヘシ
- 第三條 十五年未滿ノ者及瘋癲白痴者ハ水夫トシテ營業鑑札ヲ受ル事ヲ得ス
- 第四條 鑑札ハ營業中必ス携帯スヘシ又貸借若シクハ讓與等ヲナス事ヲ得ス
- 第五條 回漕店、回漕船、持主轉居改氏名ヲシタルトキハ速ニ届出水夫轉居改氏名又ハ鑑札ヲ亡失毀損シタルトキハ速ニ書換又ハ再下付ヲ請ヒ廢業シタルトキハ鑑札ヲ返納スヘシ
- 第六條 船艇乗組水夫ノ定員ヲ定ムルコト左ノ如シ  
船艇乗組水夫ノ定員ハ三人以上トス但豊田郡山香村瀬尻以下ニ於テ使用スル「サツバ」船ハ此限ニアラス
- 第七條 船艇乗組定員水夫ノ内一名ハ水夫長トナリ航運ニ關スル指揮ヲ掌ルヘシ但水夫長ノ年齢ハ滿二十五年以上トス  
水夫長ハ乗組水夫ノ年齢ヲ取調十五年以上十八年未滿ノ水夫ハ一艘一名ノ外乗船セシムルコトヲ得ス又經驗ノ有無ニ拘ハラズ無鑑札ノ者ヲシテ定員トナスコトヲ得ス
- 第八條 運送用ノ船艇ハ(屬具トモ)使用前持主ヨリ所轄警察官署ヘ届出検査ヲ受ク爾後滿一年毎ニ検査ヲ受クヘシ但警察官ハ臨時ニ検査スルコトアルヘシ

検査済ノ船艇ハ検査證ヲ船内見易キ所ニ釘付スヘシ

第九條 豊田郡山香村瀬尻ヨリ上流ニアリテハ三間以下ノ船艇ヲ運送船ニ用ルコトヲ得ス

第十條 船艇ノ積量ヲ定ムルコト左ノ如シ

上リ船一艘ノ積量

豊田郡山香村瀬尻ヨリ周智郡奥山村奥領家マテハ貨物四百貫目乗客十六人マテ  
長上郡掛塚村ヨリ豊田郡山香村瀬尻マテハ貨物五百貫目乗客二十人マテ  
氣多川支流筋ハ貨物四百貫目乗客十六人迄

下リ船一艘ノ積量

周智郡奥山村奥領家ヨリ豊田郡山香村瀬尻マテハ貨物八百貫目乗客卅二人マテ  
瀬尻ヨリ長上郡掛塚村マテハ貨物千貫目乗客四十人マテ  
氣多川支流筋ハ貨物六百貫目乗客二十四人マテ

前各項ノ如ク積量ヲ定ムト雖も長大ノ貨物ニシテ前各項ノ貫目ヲ積載スヘカヲサレモノハ其組合ノ規定ニ遵フヘシ

第十一條 乗客七歳以上十二歳未滿ハ二人ヲ一人ト看做シ七歳未滿ハ定員外トス

乗客ト貨物ヲ併載セントスルルハ一人ニ付二十貫目ノ割合ヲ以テ貨物ノ量ヲ控除スヘシ  
客ノ手荷物ハ合量三十貫目迄トシ其以外ニ及フトキハ貨物ノ量ヲ控除スヘシ但乗客ノミナルトキハ十二貫目ニ至リ一人ヲ控除スヘシ



第十二條 河水増量ノルハ左ノ制限ヲ格守スヘシ但一番水以下ノ水量ハ水量標ニ依ル

一番水 出船ヲ禁ス

二番水 空船ニ限り出船ヲ許ス

三番水 平水時ノ貨物積量ヨリ四分ノ三ヲ減スヘシ

四番水 平水時ノ貨物積量ヨリ四分ノ二ヲ減スヘシ

五番水 平水時ノ貨物積量ヨリ四分ノ一ヲ減スヘシ

三番水以上ニハ乗客ノ搭載ヲ禁ス

本條ノ制限ハ出船所ノ水量標ニ依ルモノナレハ若シ下流若シクハ上流ノ改船所ニ於テ水量ノ増減ノ爲メ危險ト認ムルトキハ臨機積量ヲ減セシメ又減水ノ場合ニハ積量ヲ増加セシムルヲ得

第十三條 水量標ハ改船所所在地ハ勿論其他必要ノ地ニ設置スヘシ

第十四條 夜間又ハ危險ノ虞アルトキハ出船スルヲ得ス又平水時ト増水時ト拘ハラズ乗客ニ於テ危險ト認メ上陸ヲ望ミタルトキハ之レニ應スヘシ

第十五條 上リ船ハ二俣ノ内南口、大井ノ内西渡ノ改船所ニ下リ船ハ大井ノ内西渡、二俣ノ内南口ノ改船所ニ乗客員數書貨物ノ送狀ヲ差出シ積荷ノ検査ヲ受クヘシ但買切船等ニシテ直航スルモノハ二俣ノ内南口改船所ノ外検査ヲ受クルヲ要セスト雖トモ發船地ヨリ次ノ改船所ニテ直航ノ徽章ヲ受ケ之ヲ船首ニ立ツヘシ

第十六條 直航ノ徽章ハ左ノ雜形ニ依リ之レヲ調製シテ改船所ニ備フヘシ

第十七條 客船ニハ看護人ナキ瘋癲者又ハ亂醉者若シクハ火藥其他劇發物又ハ臭氣ヲ發スル汚穢物若シクハ牛馬羊豕又ハ病アル猫犬等ヲ乘載スルヲ得ス但乗客ナキトキハ此限リニアラス

第十八條 通船(筏トモ)行フトキハ互ニ慣習ヲ格守シ衝突ノ危險ヲ避ルヲ努ムヘシ又航運中他人ノ危難ヲ認メタルトキハ速ニ協力救助スヘシ

第十九條 航運中故ナク停船シ又ハ強テ乘船ヲ勸メ若シクハ名義ノ何タルヲ問ハズ定額外ノ金錢ヲ要求スルヲ得ス

第二十條 船艇休泊中水夫長以下水夫悉皆上陸スルヲ得ス少ナクモ一名以上ヲ殘シ置キ貨物ノ保護ヲナサシムヘシ但シ空船ノルハ此限リニアラス

第二十一條 乗客ノ貨錢貨物ノ運賃ハ之レヲ一定シ所轄警察官署ヘ届出ヘシ其變更シタルトキ亦同シ但乗客貨錢定額表ハ船中見易キ所ニ掲クヘシ

第二十二條 營業上ニ關スル規約ヲ設ケタルトハ見附警察署及濱松警察署兩署長宛届出認可ヲ受クヘシ

第二十三條 營業者ハ取締一名副取締若干名ヲ撰定シテ濱松見附森町笠井二俣各警察官署ヘ届出ツヘシ

取締人若シクハ副取締人ハ營業者ノ願届等ニ連署スヘシ  
 第二十四條 取締人ヲ不適當ト認メタルハ所轄警察署長ニ於テ改撰ヲ命スルコトアルヘシ  
 第二十五條 第二條ニ違反シテ認可若シクハ鑑札ヲ受クス又ハ第六條第十條第十二條第十四條  
 第十九條ニ違反シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ  
 科料ニ處ス第四條ニ違反シテ鑑札ヲ貸借又ハ讓與シ第七條第二項第八條第九條第十條第十  
 五條第十七條ニ違反シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢  
 以下ノ科料ニ處ス第五條第七條第一項第廿條第廿一條ニ違反シタル者ハ一日ノ拘留又ハ拾錢  
 以上壹圓以下ノ科料ニ處ス  
 直航徽章離形



幅一尺 黒ノ幅一寸五分

●縣令第四十一號 明治廿八月廿七日

舟筏賦金取締規則左ノ通相定ム

舟筏賦金取締規則

第一條 目的ノ何タルニ拘ハラス事業又ハ組合等ニ要スル費用トシテ港灣及河湖通過ノ舟筏若  
 シハ積荷ヨリ金錢物件等ヲ徵收セントスル者ハ其方法及理由ヲ詳記シ地元市町村長ノ與書ヲ  
 受ク所轄警察官署ヲ經由シテ願出テ當廳ノ許可ヲ受クヘシ  
 第二條 從來前條ノ金錢物件等ヲ徵收スル者ハ七月三十一日迄ニ更ニ前條ノ手續ニ依リ願出テ  
 當廳ノ許可ヲ受クヘシ  
 第三條 第一條第二條ニ違反シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾  
 五錢以下ノ科料ニ處ス

●縣令第六十一號 明治廿九年九月九日

解舟營業取締規則左ノ通相定ム

解舟營業取締規則

第一條 本則ハ艦船其他水上ニ於クル物件縱覽人ヲ乘載スル解舟營業者ニ適用ス  
 第二條 前條ノ營業ニ供セントスル解舟ノ持主又ハ管理人ハ願書ニ左ノ事項ヲ記載シ所轄警察  
 官署ヘ届出檢査ヲ受ク其證ヲ船内見易キ處ヘ釘付スヘシ

検査證ノ有効期限ハ滿一年トス但期限内ト雖モ所轄警察署長又ハ分署長ハ必要ニ從ヒ之レカ修理ヲ命シ若シ其命ニ應セサルトキハ之カ使用ヲ停止スルヲアルヘシ

- 一 船種及定繁場
- 一 乗客及乗組水夫ノ定員
- 一 使用ノ區域及目的

第三條 舢舨乗組ノ水夫ト爲ラントスルモノハ所轄警察官署へ届出鑑札ヲ受クヘシ

第四條 左ノ事項ノ一ニ當ルモノハ前條鑑札ヲ交付セサルモノトス但第一項ヲ除クノ外定員外ノ水夫トシテ乗組場合ハ此限リニアラス

- 一 瘋癲及白痴者
- 一 十五年未滿ノ幼者
- 一 從來水夫ノ業ニ従事シタルヲナキ者

第五條 舢舨水夫ノ定員ハ長サ四間以上(自船梁至船梁)ハ水夫四人同三間以上四間未滿ハ水夫三人同三間未滿ハ水夫二人以上トス但四間以上ノ船ハ乗客定員三分ノ一ヲ減スルトキハ水夫一人三分ノ二ヲ減スルトキハ水夫二人ヲ減シ又三間以上ノ船ハ乗客定員三分ノ一ヲ減スルトキハ水夫一人ヲ減スルヲ得

第六條 乗客ノ定員ハ貨物一艘ノ總積量十分ノ三ヲ減シタルモノヲ以テ定度トス

第七條 縦覧人乗載貨ハ營業者ニ於テ之レヲ一定シ所轄警察官署へ届出認可ヲ受クヘシ之レヲ變更シタルトキハ亦同シ

第八條 名義ノ何タルヲ問ハズ定額外ノ賃錢ヲ求ムルヲ得ス

第九條 客引ニ類似スル所爲ハ之レヲ禁ス乗船切符ノ類ハ乗船場ノ外賣捌クヲ得ス

第十條 廢業シタルトキハ十日以内ニ届出ツヘシ又轉居改氏名又ハ鑑札検査證ヲ亡失シタルトキハ五日以内ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

第十一條 營業人組合ヲ設ケタルトキハ所轄警察官署へ届出認可ヲ受ケ又組合ヲ廢止スルトキハ五日以内ニ届出ヘシ

第十二條 第一條ノ營業ヲナスモノニシテ第二條ノ検査ヲ受ケス又ハ検査證使用停止中之レヲ使用シ又ハ第八條第九條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス第二條ノ検査證ヲ釘付セス若シハ乗客定員外ノ客ヲ搭載シ又ハ第三條ニ違犯シ若シハ第五條ノ水夫定員ヲ缺キ又ハ第七條第十一條ノ認可ヲ受ケサル者ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

◎縣令第六十二號 明治廿八年十一月十四日

伊豆漁船及漁船問屋營業取締規則左ノ通相定ム

伊豆汽船及汽船問屋營業取締規則

第一條 本則ハ下田、松崎、戸田、沼津、其他附近ノ港灣ヲ定繫場トナシ乗客又ハ貨物運送ノ目的ヲ以テ其近海ヲ航海スル汽船及汽船問屋營業ニ適用ス

第二條 汽船營業ヲ爲サントスル汽船ノ持主ハ願書ニ左ノ事項ヲ詳記スルノ外船舶検査及船長、機関手、運轉手ノ免狀寫ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經由シテ當廳ヘ差出免狀ヲ受クヘシ

一 發着地及寄航場ノ地名

二 航海期日

三 乗客定員及上中下等ノ區別

四 一時間ノ速力

無定期航海ノ汽船ハ其時々航海日取ヲ所轄警察官署ヘ届出ツヘシ

第三條 船主ヲ異ニスル汽船二隻以上同一ノ航路ヲ通航スル目的ヲ以テ同一ノ港灣又ハ寄港場ヲ發航スルトハ左ノ割合ヲ以テ發航時間ニ間隔ヲ置クヘシ

一 航路五海里未満ハ三十分間以上

二 同 十海里未満ハ一時間以上

三 同 十海里以外ハ五海里毎ニ三十分間以上ヲ増スヘシ

港口若クハ河中ニアリテハ干潮ニ際シ前記ノ間隔ヲ置クノ違ナキ時ハ其港口及河中ニ限リ前記ノ時限ニ拘ハラズ發進スルヲ得ト雖モ此場合ニ於テハ後進ノ汽船ハ前船ヲ距ルコト二百間

以上ノ距離ヲ保持シテ進行スヘシ

第四條 同一ノ航路ヲ同一ノ速度ノ速度ヲ有スル汽船二隻以上同時ニ進行スルトキハ後進船ハ前進船トノ中間三百間以上ノ距離ヲ保持シテ進行スヘシ

若シ後進船前進船ノ速力常用定度ニ滿タズ全ク徐行スルモノト認メ之レヲ乗越ヘ先進セントスルトキハ信號ヲ以テ前進船ニ其旨ヲ告知シ双方避讓ノ用意整ヒタル上其位置ヲ前後スヘシ前進船航海中徐行スルノ必要ヲ生シ速力ヲ減セントスルトキモ亦同一ノ手續ヲ以テ其位置ヲ後進船ニ讓ルヘシ

第五條 同一ノ航路ニ於テ進航速度ノ勝レタル汽船前進船ヲ乗越ヘ先行セントスルトキハ信號ヲ以テ其旨ヲ前進船ニ告知シ双方避讓ノ用意整ヒタル上其位置ヲ前後スルコト第四條第二項ノ如クスヘシ

位置ヲ前後セントスル爲メ信號ヲ揚クントスルトキハ總テ汽笛ヲ以テ相呼應スヘシ其應答ハ各五秒時以内ノ汽笛ニ聲トス

第六條 汽船ノ甲板ニハ周圍ニ高サ一尺五寸以上ノ扶欄ヲ設ケ客室ニハ見易所ニ左ノ事項ヲ掲示スヘシ

一 乗船ノ定員及賃錢額

二 瀛關室其他乗客ノ出入スヘカラサル場所但其場所ノ入口ニハ標札ヲ掲クヘシ  
三 本則第十條ノ全文

第七條 火藥其他劇發物又ハ六傳染病ノ患者看護者ナキ瘋癲者ハ客船ニ乗載スヘカラス看護者アル瘋癲者乗客ノ厭忌スヘキ疾病者及亂醉者ハ客室ヲ異ニスルニアラサレハ乗載スヘカラス禽畜ハ客ヲ入ルヘキ室ニ搭載スヘカラス

第八條 乗客疾病ニ罹リタル時ハ懇切ニ介抱スヘシ若シ其病症六種傳染病(虎列刺、腸室扶斯發疹室扶斯、赤痢、痘瘡、實布埤利亞)ノ疑ヒアルトキハ其吐瀉物等相當ノ消毒ヲナシ且他ノ乗客ト離隔スル等臨機適應ノ措置ヲ爲シ置キ發見後最初ノ寄港地及着船シタル地ノ警察官吏ニ届出其指揮ヲ受クヘシ但其指揮ヲ遵行シ終ラサル間ハ發船スルトテ得ス各派船ニハ前項消毒ノ用ニ充ツル爲メニ豫テ相當ノ消毒藥及消毒器具ヲ備付ク置クヘシ

第九條 乗客變死スルカ又ハ乗客ノ金錢物品等ノ紛失シタルトキハ覺知後最初ニ着船シタル地ノ警察官吏ニ届出ツヘシ

第十條 乗客ニシテ銃砲ヲ携帯スル者ハ乗船ノ際之ヲ船長ニ預クヘシ但軍人ハ此限ニアラス船長ハ乗客ヨリ預リタル銃砲ヲ船内安全ノ場所ニ保管スヘシ

第十一條 警察官吏ハ航海ノ狀況其他主管ニ屬スル事項調査ノ爲メ臨時乗船スルトテ得

第十二條 瀛船ノ發着又ハ寄航スル港灣ニハ瀛船取扱所ヲ設ケ乗客ノ上陸乗船及貨物ノ揚卸ニ關スル取締ヲナスヘシ

第十三條 乗客ニハ總テ其氏名ヲ記入シタル乗船切符ヲ交附シ船長ハ其一半(氏名アル方)ヲ保存スヘシ

第十四條 航海ヲ廢シ又ハ船長、機關手、運轉手、其他乗組人員ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ヲ經由シテ當廳ヘ届出スヘシ

第十五條 瀛船間屋營業ヲ爲サントスルモノハ願書ニ住所氏名及屋號營業所ノ地名地番ヲ詳記シ所轄警察官署ヘ差出シ免許ヲ受クヘシ營業所ヲ移轉セントスルトキ亦同シ廢業又ハ營業人死亡シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ヘ届出ヘシ

第十六條 瀛船間屋ニ乗客ヲ宿泊セシムルトハ總テ宿屋營業取締規則ヲ遵守スヘシ

第十七條 強テ客ニ乗船ヲ勸メ又ハ客引ヲ出スコトヲ得ス又名義ノ何タルニ拘ハラズ定額外ノ金錢ヲ求ムルコトヲ得ス

第十八條 乗客ノ運賃額ハ之テ一定シ所轄警察官署ヲ經由シテ當廳ヘ届出認可ヲ受クヘシ増減變更シタルトキモ亦同シ

第十九條 本則ニ依ル願書ハ所轄町村役場ノ捺印ヲ受ケ差出スヘシ

第二十條 第三條第四條第五條第八條ニ違反シ又ハ速度ノ速力ヲ用ヒテ他船ト競争シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス第二條ノ免許ヲ受クス又ハ第七條ニ違反シ及第十一條ノ乗船ヲ拒ミ又ハ第十五條第十七條ニ違反シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス第六條ノ指示ヲ爲サス又ハ第九條第十條第十三條第十四條第十八條ニ違反シタル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第二十一條 從來ノ營業者ハ明治二十九年一月十五日マテニ總テ本則ノ手續ヲナスヘシ

第二十一 漂流物及難破船

●乙第七十五號

明治十一年五月十五日

區 長 戶 長

漂流物取扱ニ付テハ豫テ一般ノ規則モ有之候處從來沿海傍河ノ人民タル一朝降雨ノ際既テ漂流物ヲ拾取シ私ニ自己ノ所有トナスノ惡習有之開明ノ今日ニ於テモ此弊風ヲ洗滌セス往々注意ニ觸レ刑科ノ慘苦ヲ嘗ムルノミナラス貴重ノ榮譽ヲ毀損候モノ不悛候處多クハ成法ノ如何ヲ辨知

セサルヨリ偶然相犯シ候哉ニ相聞ヘ惻惻ノ事ニ候抑漂流物取扱ニ付テハ明治八年第六十六號ヲ以委詳公布有之拾得物ヲ私擅ニ處置候者ハ律ニ照シ處刑セラ、ルハ勿論ノ義ニ付以來該公布ノ趣厚ク遵守シ必ス心得違無之様河海近傍ノ人民ヘ懇切諭示可致此段更ニ相違候事

●號外達

明治十四年三月十九日

沿海郡町村

明治八年第六十六號公布内國船難破及ヒ漂流物取扱規則第十二條第三項ニ浦方ヨリ管轄其外等ヘ發シタル電信郵便及ヒ飛脚賃トアルハ郡役所並警察署等ヘ發シタル分ニテ船主荷主等ヘ報知ニ係ル費用ハ悉皆其船主荷主ヨリ可爲差出筋ニ候條此旨相違候事

●丙第四號

明治廿二年八月十四日

郡役所、警察署分署、町村役場

明治八年四月第六十六號布告内國船難破及漂流物取扱規則第十二條ノ費用中從前地方稅ヲ以テ支辨シタルモノハ客年法律第一號市制實施後左ノ區分ニ依テ支辨スル義ト心得ヘシ

- 第一 自然消滅ニ屬スルモノトス
- 第二及第三 町村ノ負擔トス
- 第四及第五 地方稅ノ負擔トス

第二十二 外國艦船等

●庶第九一號

明治廿一年六月十五日

郡役所 開明引佐  
玉那ヲ除ク

自今外國船碇泊ノ節ハ所屬地浦役人ヨリ直ニ本縣へ開申スヘキ様相違スヘシ

但抜錨ノトキモ之ニ同シ

●庶第九三〇號

明治廿一年六月十六日

沿海郡役所

本年本縣庶九一一號達ニヨリ浦役人ヨリ開申ノ節ハ最寄警察官へ同時ニ通知スヘキ旨相違スヘシ

●規保第一〇號

明治廿二年七月五日

沿海警察署、分署長

諸港灣ニ外國軍艦碇泊ノ節ハ速ニ訪問シ左ノ區別ニ從ヒ一而海軍大臣及横須賀鎮守府司令長官ニ報告シ一而開申スヘシ

但我軍艦碇泊スル節ハ本文ノ報告ヲ成スヲ要セス

右訓令ス

一 艦名並入津月日時刻

一 何レヨリ何用ニテ入港何用ニテ何レニ出港

右電信ニテ報告スヘシ 電信局ナキ地ハ最近ノ電信局迄郵便ヲ以テ送り同局ヨリ電信ニテ報告スヘシ

一 乗員ノ舉動其他見分ノ次第

第二十三 質屋及古物商

●縣令第四十九號

明治廿八年八月廿三日

質屋取締法及質屋取締法細則施行規則左ノ通相定ム

質屋取締法及質屋取締法細則施行規則

第一條 質屋取締法細則第一條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ所轄警察署長分署長ニ委任ス但營業ヲ禁止若クハ停止シ又ハ營業禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限リニアラス

第二條 質屋營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ記載シ所轄警察官署へ差出シ免許ヲ受クヘシ

一 族籍住所氏名年齢

二 他管下ヨリ移住シタル者ハ前住地及現住地ニ移轉シタル年月又族籍氏名ヲ變更シタル者ハ其舊族籍又ハ舊氏名

但住所ヲ移轉シ族籍氏名ヲ變更スルコト再三ニ及フ者ニシテ必要ヲ認メタルハ本人ノ寫眞ヲ出サシムルコアルヘシ

營業者死亡シ相續人繼續シテ營業セントスルハ死亡届ト同時ニ營業願ヲ差出シ免許ヲ受ク  
ヘシ  
營業上ノ都合ニ依リ代理人ヲ使用セントスルハ其者ノ住所氏名年齢ヲ記載シテ届出ツヘシ  
本條第一項第一第二ノ規定ハ代理人、後見人及支店管理人届ニモ適用ス

第三條 質屋ノ帳簿ハ質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫帳ノ三種トシ其書式ヲ定ムルヲ左ノ如シ

質物臺帳書式

明治何年何月何日

住 所

氏 名

第何號

一何色何々紋付男小袖

一何色何々女小袖

一何々

メ何品

貸金何圓

受出シ流質ハ朱書ニテ左ノ如ク記入スヘシ

明治何年何月何日受出シ又ハ流質(若シ流質ノ後自用ニ供シタルハ其旨ヲ記載スルモノ

トス)

證人ヲ要シタルハ其住所氏名ヲ記シ警察官吏ノ認可ヲ受ケタルハ其旨ヲ記スヘシ質札通

帳モ亦同シ

前書式ハ其一斑ヲ示シタルモノニ付其質物ニ依リ種類大小色合地質、生産地ノ分明ナルモノ

ハ其生産地名、番號アルモノハ番號、金具其他ノ屬具アルモノハ其金具及屬具、筆者アルモノ  
(書畫ノ如キ)ハ筆者ノ名號、破損又ハ幾部ノ手入アルモノハ其破損又ハ幾部ノ手入アルモノ  
等ヲ詳記スヘシ

流質物賣拂帳書式

明治何年何月何日第何號又ハ第何號ノ内一又ハ二又ハ三(以下做之其第何號ノ内一二

トハ初筆ノ分ヨリ順次附數ス)

一 何々々品

一 何々々品

一 何々

此賣拂帳ニハ買主ノ住所氏名、賣却ノ年月日ヲ詳細記載スヘシ

品觸寫帳書式

明治何年何月何日觸出シ何月何日到達

一 何々

一 何々

品觸寫帳ニハ總テ品觸書ニ記載アル儘ヲ増減スルコトヲク謄寫スヘシ

第四條 質札通帳ノ製方及書式ヲ定ムルヲ左ノ如シ但番號ハ質物臺帳ノ番號ヲ記載スルモノト

ス

質札製方

切紙但寸法適宜



同書式

明治何年何月何日質入

一何々 (總テ質物彙帳ト同一ニ書ス)

一何々

何品

貸金何圓

住 所

營業者又ハ管理人

氏名圖

住 所

何ノ某殿

質物通帳

製方横帳

同書式

明治何年何月何日質入

第何號

一 何々 (總テ質物彙帳ト同一ニ書ス)

一 何々

何品

貸金何圓

通帳ノ表紙ニハ營業者又ハ管理人記名捺印スヘシ

- 第五條 質物彙帳、流質物賣拂帳、品類寫帳ハ其紙數ヲ記シ所轄警察官署ノ捺印ヲ受クヘシ
- 第六條 質屋營業者ハ警察官署ノ所轄内ヲ以テ一組合ヲ作り取締人一名副取締人一名乃至數名ヲ公撰シテ届出テ所轄警察官署長又ハ分署長ノ認可ヲ受クヘシ
- 第七條 取締人副取締人ノ任期ハ滿四年トス但滿期ノ後再撰スルモ妨クナシ
- 第八條 取締事務所ヲ設ケタルトキハ所轄警察官署ヘ届出テ左ノ標札ヲ掲クヘシ  
木質寸法適宜

何郡市質屋營業組合事務所

數郡又ハ郡市ヲ併セ一組合ヲナスモノハ其郡市名ヲ併記シ一郡中數組合アルモノハ郡ノ下ヘ某組合ト其地名ヲ冠スヘシ

第九條 質屋營業者ハ利子ノ割合、流質期限、質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方、質物出入時間等ヲ定メ所轄警察官署ヘ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキモ亦同シ但組合ニ於テ之ヲ定メタルトキハ取締人ヨリ届出ツヘシ

第十條 前條營業者ノ定メハ質札及通帳ニ於テ便宜ノ箇所ニ記載スヘシ

第十一條 質屋營業者ハ一定ノ帳簿ヲ製シ質札又ハ通帳ヲ渡シタル者ノ住所氏名ヲ記載シ置キ警察官吏ノ求メアリタルトキハ其檢閲ニ應スヘシ

第十二條 質屋營業者ハ流質物ヲ市場ニ出シテ販賣シ又ハ店頭ニ陳列シ若シクハ雜賣シ又ハ廣告シテ購賣者ヲ募リ或ハ行商セントスルトキハ古物商營業ノ免許ヲ受クヘシ

第十三條 第三條第四條ノ書式ヲ遵守セス又ハ第五條第九條第十條第十一條ニ違反シタル者ハ貳拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十四條 質屋取締條例ニ依リ許可ヲ受ケ現ニ營業中ノ者引續キ營業セントスルトキハ質屋取締法施行ノ日マテニ本則第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 前條ノ營業者ニ於テ現ニ使用中ノ帳簿質札通報ハ質屋取締法及質屋取締法細則並ニ此規則ニ抵觸セサルモノハ其儘使用スルヲ得

第十六條 質屋營業者ノ願屆等ハ取締人連署ノ上市ニ在リテハ市役所町村ニ在リテハ其町村役場ノ檢印ヲ受ケ差出スヘシ

◎縣令第五十號 明治廿八年八月廿三日

古物商取締法及古物商取締法細則施行規則左ノ通り相定ム

古物商取締法及古物商取締法細則施行規則

第一條 古物商取締法細則第一條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ所轄警察署長分署長ニ委任ス

但營業ヲ禁止若クハ停止シ又ハ營業禁止若クハ停止ヲ解除ノ處分ハ此限りニアラス

第二條 古物商營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ物品ノ種類ヲ記載スルノ外左ノ事項ヲ記シ所轄警察官署ヘ差出シ免許ヲ受クヘシ物品ノ種類ヲ變更シタルトモ亦同シ

一 族籍住所氏名年齢

一 他管下ヨリ移住シタル者ハ前住地及現住地ニ移轉シタル年月又族籍氏名ヲ變更シタル者ハ其舊族籍又ハ舊氏名

但住居ヲ移轉シ族籍氏名ヲ變更スルコト再三ニ及フ者ニシテ必要ヲ認メタルトハ本人ノ寫眞ヲ出サシムルコトアルヘシ

營業者死亡シ相續人繼續シテ營業セントスルトハ死亡届ト同時ニ營業願ヲ差出シ免許ヲ受クヘシ

營業上ノ都合ニ依リ代理人ヲ使用セントスルトハ其者ノ住所氏名年齢ヲ記載シテ届出ヘシ本條第一項第一第二ノ規定ハ代理人後見人及管理人届ニモ適用ス

第三條 物品ノ種類ハ左ノ名稱ニ依リ之レヲ記載スヘシ

古着 古道具 古本 古書畫 古銅鐵 漬金銀

古物商取締法細則第二條ニ該當スル營業者ハ亦本條ノ例ニ依リ同條ニ列記スル種類ノ名稱ヲ記載スヘシ

第四條 左ノ營業ニシテ隨時其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スルトハ古物商取締法古物商取締法細則及此ノ規則ヲ遵守スヘシ

箱打商 煙管商 鍛冶商 鑄銅鐵商

第五條 古物商ノ帳簿ハ物品買受讓受明細帳物品賣渡讓渡明細帳物品預リ帳及品觸寫帳ノ四種トシ其書式ヲ定ムルコト左ノ如シ

物品買受讓受明細帳書式

明治何年何月何日

第何號

住 所

氏 名

一何色何品紋付男小袖

一何色何々女小袖

一何々

何品

此代金何圓何拾錢

若シ物品交換ニ係ルトキハ物品賣渡讓渡明細帳何年何月何日第何號ノ物品ト交換スト書シ過不足ヲ金員ニテ取引シタルトキハ其金高ヲ記スヘシ

證人ヲ要シタルトキハ其住所氏名ヲ記シ警察官吏ノ認可ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ記スヘシ前書式ハ其一班ヲ示シタルモノニ付其物品ニ依リ種類大小色合地質、生産地名ノ分明ナルモノハ其生産地名、番號アルモノハ番號、金具其他ノ屬具アルモノハ其金具及屬具、筆者アルモノハ(書畫ノ如キ)其筆者ノ名號、破損又ハ幾部ノ手入アルモノハ其破損又ハ幾部ノ手入アルコト等ヲ詳記スヘシ

物品賣渡讓渡明細帳書式

明治何年何月何日第何號又ハ第何號ノ内一又ハ二又ハ三(以下倣之又其第何號ノ内一二トハ初筆ノ分ヨリ順次附數ス)

一何々品

一何々品

一何々

住所氏名ノ知レタル者ハ其住所氏名ヲ記載

此代金何圓何拾錢

若シ物品交換ニ係ルトキハ物品買受讓受明細帳何年何月何日第何號ノ物品ト交換スト書シ過不足ヲ金員ニテ取引シタルトキハ其金高ヲ記スヘシ

物品預リ帳書式

明治何年何月何日何縣何郡(市)何町村大字何々番地何某ヨリ預リ

一何々品

一何々品

一何々

何品

種類大小色合地質生産地番號筆者金具屬具其他破損又ハ手入等アルモノハ總テ物品買受讓受明細帳ト同一ニ詳記スヘシ 若シ物品ヲ返還シタルトキハ朱書ニテ左ノ如ク書スヘシ

明治何年何月何日日本人又ハ其使某ナル者ニ返還ス

品觸寫帳書式

明治何年何月何日觸出シ何月何日到達

一何々

品觸寫帳ニハ總テ品觸書ニ記載アル儘ヲ増減スルコトナク腰寫スヘシ

第六條 前條ノ諸帳簿ハ其紙數ヲ記シ所轄警察官署ノ捺印ヲ受クヘシ

第七條 物品ヲ他管下ヘ運送セントスルトキハ發送三日前ニ物品ノ目錄ヲ作り受取人ノ住所氏名ヲ記載シ又他管下ノ物品ヲ受取リタルトキハ物品ノ目錄ニ發送人ノ住所氏名ヲ記載シ到着三日以内ニ所轄警察官署ヘ届出ツヘシ

第八條 店舗又ハ營業所ヲ有セス單ニ行商ノミヲ爲ス者(家族又ハ同居雇人ノ行商ヲ除ク)ハ不在中營業ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ留守引受人ヲ定メ届出ツヘシ

留守引受人ニハ營業者在宅中ト雖モ其願届ニ連署セシムヘシ

第九條 古物商ニシテ露店ヲ出ス者及行商スル者ハ左ノ雛形ニ依リ鑑札ヲ調製シ所轄警察官署ヘ差出シ營業ノ種類住所氏名番號等ノ記入及捺印ヲ受クヘシ

若シ紛失遺失盜難又ハ毀損シ若シクハ鑑札而ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ前項ノ手續ヲ以テ書換又ハ再記入ヲ受クヘシ

長サ 七寸



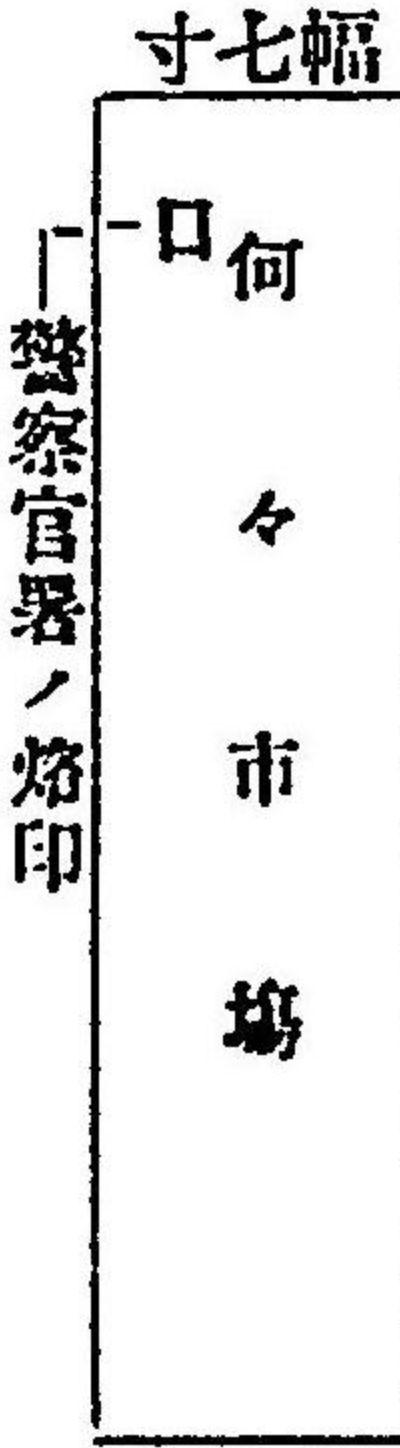
明治何年何月何日



裏 同 断



第十條 古物商市場ニハ看板ヲ掲クヘシ其寸法書式左ノ如シ

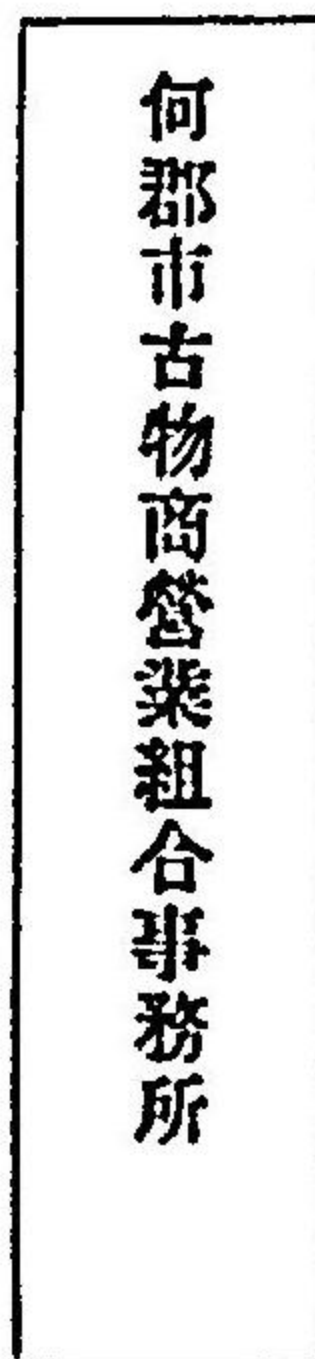


第十一條 露店營業ノ鑑札ハ店頭見易キ所ニ出シ置クヘシ

第十二條 古物商營業者ハ其警察官署ノ所轄内ヲ以テ一組合ヲ作り取締人一名副取締人一名乃至數名ヲ公撰シテ届出テ所轄警察署長又ハ分署長ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 取締人副取締人ノ任期ハ滿四年トス但滿期ノ後再撰スルモ妨クナシ

第十四條 取締事務所ヲ設ケタルトハ所轄警察官署ヘ届出テ左ノ標札ヲ掲クヘシ



敷郡又ハ郡市ヲ併セ一組合ヲナスモノハ其郡市ヲ併記シ一郡中數組合アルモノハ郡ノ下ハ某組合ト其地名ヲ冠スヘシ

第十五條 第五條ノ書式ヲ遵守セス又ハ第六條第七條第八條第九條第十一條ニ違犯シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十六條 古物商取締條例ニ依リ許可ヲ受ケ現ニ營業中ノ者引續キ營業セントスルホハ古物商取締法實施ノ日マテニ本則第二條ノ手續ヲナスヘシ

第十七條 前條ノ營業者現ニ使用中ノ帳簿ハ其用紙ノ存在スル限り其儘使用スルヲ得

第十八條 古物商營業者ノ願届等ハ取締人連署ノ上市ニ在リテハ市役所、町村ニ在リテハ其町村役場ノ捺印ヲ受ケ差出スヘシ

第二十四 印 判

●甲第七十二號

明治十六年八月十日

印判取締規則別紙ノ通相定候條此旨布達候事

(別紙)

印判取締規則

第一條 印判彫刻ノ業ヲ營ムモノハ其住所氏名ヲ所屬警察署又ハ分署ヘ届出ツ可シ

但住所氏名ヲ變換シ又ハ廢業ノ節ハ其旨届出可シ

第二條 官廳外ヨリ官印ノ彫刻ヲ乞フモノアルトハ其者ノ住所氏名ヲ聞取リ該官廳ヘ伺出指揮ヲ受クヘシ

第三條 權利義務ニ關シ證憑トナルヘキ印章ノ彫刻ヲ乞フ者アルホハ其年月日及依囑者ノ住所氏名ヲ帳記シ竣工ノ上ハ印譜ニ印形ヲ存シ且依囑者ヘ渡シタル年月日ヲ記載シ置クヘシ

但本文ノ簿冊ハ廢業後ト雖モ最終記載ノ日ヨリ滿十ケ年間保存シ置ク可シ

第四條 磨滅欠損等ニテ舊印ノ如ク彫刻ヲ乞フカ若クハ捺印ヲ注文スル者アルトハ必ス後證ニナルヘキ爲メ字畫又ハ邊縁ノ内幾分ヲ變更シ置ク可シ

第五條 印面上半又ハ下半或ハ左右半面ノ類總テ印面ノ全軀ヲ欠キタル印章ノ彫刻ヲ乞フ者アルホハ所屬警察署分署若クハ派出所交番所又ハ巡行ノ警察官吏ヘ報告スヘシ

第六條 第一條第三條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

明治二十  
年令第十  
七號第十  
七條以下  
改正

第七條 第二條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

### 第二十五 違警罪

◎縣令第七十五號 明治二十年九月十五日

本縣違警罪別紙ノ通り改定本年十一月一日ヨリ實施ス

#### 違警罪

第一條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

下ノ科料ニ處ス

- 一 紙幣ニ疑シキ印刷物ヲ製造販賣授受又ハ所持スルモノ(明治廿五年縣令第四十六號ヲ以テ追加)
- 二 水火其他ノ變ニ際シ官吏ノ制止ヲ背セスシテ防禦ノ妨ヲ爲シタル者
- 三 禽獸ヲ捕ル爲メ山野ニ置銃シタル者

第二條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

下ノ科料ニ處ス

- 一 正當ノ事由ナクシテ行政上官署ノ召喚ニ應セサル者

明治三十一年縣令第十號  
第三十六號  
第三十七號  
第四十七號  
刑罰ニテ

明治三十一年縣令第十號  
第三十六號  
第三十七號  
第九號  
刑罰ニテ

- 二 坑竅又ハ窩弓ヲ設ケ其標幟又ハ繩張ヲ爲サ、ル者
- 三 毒物劇物ヲ用非テ禽獸魚類ヲ捕フル者
- 四 生河豚又ハ病死ノ禽獸ヲ食料ニ販賣シ若シクハ贈與シタル者(明治廿三年縣令第四號ヲ以テ追加)
- 五 堤防水除坑其他水防ト爲ルヘキモノニ妨害ヲ爲シタルモノ
- 六 測量標ヲ毀棄汚損シタル者

第三條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

以下ノ科料ニ處ス

- 一 官署ヨリ榜示セル禁制ヲ犯シタル者
- 二 人ニ汚穢物又ハ瓦礫等抛澆シタル者
- 三 田畑川堀等ヘ土芥瓦礫其他妨害ト爲ルヘキ物ヲ投棄シタル者
- 四 壯士又ハ有志者ト稱シ若クハ以上ノ名稱ヲ稱セストモ人ノ門戸ニ就キ旅費其他金品ヲ求メ又ハ物品ノ購買ヲ迫リタル者(二十九年縣令第十二號ヲ以テ改正)
- 五 他人又ハ共同ノ用水ヲ恣ニ我耕地ヘ引入レタル者
- 六 神社佛閣ノ器物又ハ墳墓ノ供品類ヲ汚損シタル者
- 七 官許ヲ得スシテ私邸外ニ於テ大弓射的ヲナシタル者
- 八 鷄ヲ闘ハシメタル者(明治廿一年縣令第六十一號ヲ以テ追加)
- 十 猥リニ堤塘河岸若シクハ寄洲ヲ使用シ又ハ其土砂ヲ掘取ル者(廿六年縣令第四十五號ヲ以テ追加)
- 十一 猥リニ堤腹又ハ土出シ若シクハ蛇籠ヲ昇降スル者(同上)
- 十二 路上ニ於テ讀賣ヲナシタル者(廿六年縣令第六十九號ヲ以テ追加)

明治廿二年  
令第二  
三號  
以第十  
三號  
刪除

十三 卑猥ノ謠曲ヲ爲シテ菓子其他ノ物品ヲ行商シタル物(全上)

第四條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

一 外國人ヲ無届止宿セシメタル者

二 族籍氏名ヲ詐稱シタル者

四 人ノ干物物干場漁場海苔柵水車水碓等ニ妨害ヲ爲シタル者

五 通船其他妨害ト爲ルヘキ場所ニ漁具ノ類ヲ設ケタル者

第五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

一 路上或ハ群集若シハ見隠ナキ場所ニ於テ袒裼裸裎シ又ハ膝以上ヲ顯ハシタル者(明治廿二年令第二十三號ヲ以テ改正追加)

二 夜間十二時後日出前歌舞音曲其他喧噪シタル者

### 第二十六 雜 件

●告諭 明治十四年十二月八日

近來萬年青ノ類各地ニ流行ヨリ彼ノ一時浮利ヲ追フ投機者ニ甘誘セラレ本業ヲ拋棄スルノミナラス儘々危險ノ金融等ヲナス者有之趣相聞嚮ニ兎豚ノ流行セシカ其結果果シテ如何ソヤコレマタ一時ノ流行ニシテ結局産ヲ破リ身ニ禍シテ一般ノ衰微ヲ招キ耳依リテ能ク往時ヲ顧ミ將來

ヲ考ヘ屹度反省シ如此捕影ノ浮利ニ眩惑セラレ各自正業ノ家産ヲ破ラサル様致スヘシ此旨告諭候事

●號外 明治十八年八月十三日

郡 町 村

近來途上ニ露宿候乞丐昧ノ者増獲候ニ付テハ警察官ニ於テ一應取調ベノ上其原籍町村ヘ可引渡候條不都合無之様取計將來生計上適宜ノ方法等注意可致此旨相達候事

●告示第七十二號 明治廿九年九月廿日

自今無主ノ犬ハ所轄警察署又ハ分署ニ於テ便宜撲殺セシメ候條飼犬ハ飼主ニ於テ頸輪又ハ木札ヲ付シ其住所氏名等ヲ明記シ置クヘシ

●號外達 明治十九年一月廿八日

戸 長

法衙ハ勿論警察署ヨリ被告人原籍取調方照會有之節回答遅延候テハ治罪上差支不協候條精々注意ヲ加ヘ迅速回答候様可致此旨内達候事

●縣令第十一號 明治二十九年二月四日

名義ノ如何ニ拘ハラス人ノ門戸ニ就キ金錢物品ノ寄進惠與若クハ義捐ヲ勸誘募集セントスル者ハ豫シメ其目的方法及住所氏名年齢並ニ募集區域、期限、現金、保管方法等ヲ詳記シ市ニ在リテハ市長町村ニ在リテハ町村長ノ與書ヲ受テ所轄警察官署ヲ經由シテ當廳ヘ届出認可ヲ受クヘ

前項ノ認可ヲ經タルモノト雖モ募集方法ニ違ヒ又ハ目的方法不確實ト認メタルトキハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

本令第一項ノ認可ヲ經ス又ハ認可取消後ニ募集シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●縣令第十號 (明治廿八年二月十七日)

非商會社貯蓄若クハ利殖事業取締規則左之通相定ム

非商會社貯蓄若クハ利殖事業取締規則

第一條 商會社ニアラスシテ貯蓄若クハ利殖ノ方法又ハ講法ヲ設ケ同盟者ヨリ掛金若クハ預金ヲ爲サシメントスル者ハ市ニ在リテハ市長町村ニ在リテハ町村長ノ與書ヲ受ク所轄警察官署ニ願出認可ヲ受クヘシ但報德社ニ屬スルモノハ本則ヲ適用スルノ限リニアラス (明治三十年縣令第四十四號)

ナ以テ改正)

第二條 前條ノ認可ヲ與ヘタル後ト雖モ縣廳ニ於テ其事業公安ヲ害スルモノト認メタルトハ何時ニテモ之ヲ取消スコトアルヘシ

第三條 認可ヲ得ス又ハ認可ヲ取消サレタル第一條ノ事業ヲ爲シタル者ハ五圓以上拾圓以下ノ

罰金ニ處シ又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第四條 從來第一條ニ掲ケル事業ヲ爲セル者ハ此縣令施行ノ日ヨリ十日以内ニ更ニ第一條ノ手續ニ依リ願出認可ヲ受クルニアラサレハ其事業ヲ繼續スルコトヲ得ス犯ス者ハ罰前條ニ同シ

第五條 此縣令ハ明治廿八年三月一日ヨリ施行ス

●縣令第四十號 (明治二十八年七月十三日)

名義ノ何タルニ拘ラス金品ヲ得又ハ得ルノ契約ヲ以テ八年未滿ノ幼兒ヲ貰受ル者ハ其兒ノ年齢及實父母ノ住所氏名ヲ記シ幼兒ヲ引取リシ日ヨリ七日以内ニ所轄警察官署ヘ届出ヘシ

養育料ヲ得又ハ得ルノ契約ヲ以テ前項同齡ノ幼兒ノ寄託ヲ受ク養育セントスルモノ亦同シ

第一項第二項ニ該當スル幼兒ヲ現ニ贖居又ハ養育スル者ハ本令發布ノ日ヨリ廿日以内ニ第一項ノ手續ヲナスヘシ

幼兒ノ實父母若クハ親戚其他縁故アルモノハ保護ノ目的ヲ以テ其幼兒ノ住所氏名ヲ記シ贖主養育主所在ノ警察官署ヘ届出ルコトヲ得

第一項第二項第三項ニ違犯シタル者ハ二日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●告示第五十三號 (明治三十一年四月十五日)



安倍郡清水町ニ静岡憲兵警察區清水町屯所ヲ開設シ本月七日ヨリ勤務實施候旨通報アリタリ

●告示第五十四號 (明治三十一年四月十九日)

憲兵屯所巡察區左記之通り改正候旨通知アリタリ

静岡市屯所巡察區

静岡市 安倍郡内

(清水町入江町有度村三保村不二見村久能村ヲ除ク)

志太郡 榛原郡

小笠郡 周智郡

磐田郡 濱名郡

引佐郡

清水町屯所巡察區

庵原郡 安倍郡ノ内

(清水町入江町有度村三保村不二見村久能村)

富士郡

沼津町屯所巡察區

駿東郡 田方郡

賀茂郡

### 第二十七 司法警察

●號外 明治二十六年十月九日

郡役所、市役所、町村役場

今般司法警察官執務心得別紙之通司法大臣ヨリ訓令相成候條此旨心得ヘシ

但海船ノ船長ヘハ町村役場ニ於テ通達スヘシ

司法警察官執務心得

#### 第一編 總則

第一條 司法警察官ハ犯罪ノ捜査ヲ爲シ現行犯罪ノ假豫審ヲ行フヲ以テ其職務トス

第二條 左ニ記載シタル官吏、公吏等ハ司法警察ノ職務ヲ行フニ付キ檢事ノ指揮ヲ受ク可キモ

ノトス

一 警視、警部長、警部

二 憲兵、將校、下士

三 島司

四 郡長

五 市町村長及ヒ之ヲ置カサル地ニ於テ其職務ヲ行フ吏員

六 林務官

七 北海道集治監ノ典獄

八 海船ノ船長

第六以下ニ記載シタル者ハ各其主管ニ關スル犯罪ニ付キ司法警察ノ職務ヲ行フ

第三乃至第五ニ記載シタル者ハ急速ヲ要スル場合ヲ除ク外成ル可ク其處分ヲ第一第二ニ記載シタル者又ハ主管ノ者ニ譲ル可シ

第三條 警視總監、府縣知事東京府知事ヲ除クハ各其管轄地内ニ於テ犯罪捜査ノ權ヲ有スト雖モ異常ノ場合ニ於テ之ヲ行フヲ例トス此場合ニ於テモ成ル可ク其處分ヲ檢事ニ譲ル可シ

第四條 司法警察官ノ職務ハ晝夜ノ別ナク休暇ト雖モ之ヲ行フ可キモノトス

第五條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ迅速ニシテ事機ヲ失ハサルコトヲ要ス

第六條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ級密ニシテ細大ノ事物ニ注目スルコトヲ要ス

第七條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ能ク秘密ヲ守リ犯人逃走、罪證湮滅、人心動搖ノ弊ナカラシメ且被告人其他ノ者ノ名譽ヲ毀損スルコトヲキヤ要ス

第八條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ大事ニ嚴ニシテ小事ニ寛ナラサル可カラス

又濫ニ人ノ隱微ヲ訐クコトヲキヤ要ス

第九條 司法警察官ノ職務ヲ行フハ法律ニ於テ特ニ定メタル場合ノ外強制ヲ用フルコトヲ得ス

第十條 司法警察官ハ服務時間外ト雖モ急速ヲ要スル事件アルトキハ成ル可ク其處分ヲ爲ササル可カラス

第十一條 司法警察官ハ専ラ奸惡ヲ摘發シ公害ヲ除クコトニ着眼ス可シ一概ニ犯罪ヲ檢舉スル

コトノ多數ナルノミヲ以テ其職務ヲ盡スモノト爲ス可カラス

第十二條 奸惡ノ徒ハ巧ミニ法網ヲ脱スルコトヲ圖ルモノナレハ司法警察官タル者宜シク其犯罪ヲ看破スルコトニ注意ス可シ

第十三條 司法警察官ハ捜査ヲ爲スニ付キ檢事ノ指揮ニ從フ可キハ勿論ナリト雖モ事毎ニ其指揮ヲ待ツ可キモノニ非ス故ニ犯罪アルニ當テハ直チニ捜査ニ着手セサル可カラス

第十四條 司法警察官被告人又ハ被害者ト親屬若クハ故舊ナルトキハ嫌疑ヲ避クル爲メ成ル可ク其處分ヲ他ノ司法警察官ニ譲ル可シ

第十五條 司法警察官職務ヲ行フ場合ニ於テ其制服ヲ着用セサルトキハ司法警察官タルノ證書ヲ携帯スヘシ若シ請求スル者アルトキハ之ヲ示スヘシ

第十六條 司法警察官職務ヲ行フニ際シ必要トスルトキハ警察署憲兵屯營ニ照會シテ巡查憲兵上等兵ヲ使用スルコトヲ得但事機緊急ナルトキハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十七條 司法警察官ハ各其行政上ノ管轄區域内ニ於テ職務ヲ行フヲ例トス但假豫審處分ヲ除ク外時宜ニ依リ他ノ管轄區域内ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第十八條 司法警察官捜査ヲ爲スニ付テハ犯罪ノ性質、場所及ヒ被告人ノ身分ニ付キ制限アルコトナシ

第十九條 司法警察官他ノ司法警察官ヨリ其管轄区域内ニ於テ取扱フ可キ事件ニ付キ補助ノ求メアルトキハ之ニ應ス可シ豫審判事ノ求メニ付テモ亦同シ

第二十條 司法警察官左ニ記載シタル犯罪アルコトヲ知リタルトキハ速ニ之ヲ檢事局ニ報告ス可シ

- 一 刑法第二編第一章第二章及第三章第一節ノ犯罪
- 二 高等官、華族、有位、帶勳者ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ犯罪
- 三 外國人ノ犯罪及ヒ外國人ニ對シタル犯罪
- 四 重要ノ犯罪又ハ公衆ノ耳目ヲ惹ク可キ犯罪

第二十一條 陸海軍軍人、軍屬ノ犯罪ニ付テハ陸海軍治罪法及其違警罪處分例ニ從ヒ處分ス可シ但歸休兵及豫備、後備ノ軍籍ニ在リテ召集中ニ在ラサル者并ニ在官、現役又ハ召集中罪ヲ犯シ免官、免役若クハ解散ノ後發覺シタル者ハ常人ノ例ニ依ル

(參照)

陸軍治罪法

第四十二條 司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證ノ處分ヲ爲シ調書ヲ作り陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ送致ス可シ

第四十三條 豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ陸軍

檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長大隊區司令官監獄長衛兵司令ニ之ヲ交付ス可シ

海軍治罪法

第四十二條 憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢事司法警察官軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ其事件ヲ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長ニ交付ス可シ

第四十九條 憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲シ調書ヲ作り海軍檢察官ニ之ヲ送致ス可シ

陸軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條 陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

海軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條 海軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

第二十二條 外國公使館ニ關スル事件ニ付テハ明治七年太政官第百二十八號達ニ從ヒ處分ス可シ

(參照)

明治七年太政官第百二十八號達

司法警察規則附錄

外國公使及公使館屬員ノ事

第一條 外國公使ハ我國憲ヲ以テ羈縻スヘカラサル通義ナレハ是ヲ擴張スル時ハ其家族並ニ

公使館屬員(書記官、領事官、書記官ノ家族及ヒ書記官ノ僕隸等ニテ公使館ノ名籍ニアル者ヲ云フ)及ヒ其家屋車馬迄モ同様ナリト恩料スヘシ

第二條 內國人公使館又ハ公使ノ書記官ニ備ハレ公使館ノ名籍ニ在ル間ハ公使館ノ屬員ト見做シ若シ事故アリテ逮捕セサルヲ得サルカ或ハ呼出シテ糾問セサルヲ得サル時ハ外務省ヲ匿テ公使館ヘ報知シ其確證ヲ待テ後引出スヘシ尤モ其者ヲ處分スルハ公使ノ關係スルコトニアラス

第三條 內國人各公使館及書記官ニ備ハレ中ハ其公使又ハ代理ヨリ其者ノ名籍ヲ外務省ヘ届出外務省ハ其届書ヲ速ニ司法警察官吏ヘ送達シ置ヘシ警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿記シ置ヘシ若シ途中ニテ或ル人ヲ引留其名籍ノ在ル所ヲ聞知ス時公使館ニ備ハレ中ト稱スル時其簿記ト校照シ愈相違ナキハ一旦公使館迄同道シ照會ヲ遂ケタル後其處分ヲ施スヘシ若シ其姓名簿記中ニ在ラサル者ニテモ其本人決シテ相違ナキ旨ヲ述フル時ハ公使館ヘ同道シ右ノ如ク處置ス可シ

但シ重科ニテ捕縛セサルヲ得サル者ハ第六條ニ照シテ處分スヘシ

外國公使館ノ事

第四條 外國公使館内ヘハ事故アリテ館主ヨリ請求スル時ノ外決シテ立入ルヘカラス若シ重科ヲ犯シタル罪人ト見留タル者奔逃シテ門内ヘ匿入セシ等盜賊ノ間モ猶豫スヘカラス時ハ其把門者ニ告ク其館主ノ許可ヲ受テ後館内又ハ邸内ヲ探索スヘシ

第五條 右公使館書記官ノ住宅ニ在ル内外屬員ハ勿論馬車家畜ノ末ニ至ル迄一切手ヲ觸ルヘカラス若シ職務上止ムヲ得ス手ヲ降スヘキ事故アラハ是ヲ外務省ニ打合セ而シテ其處分ヲ爲ス可シ

外國公使館員罪ヲ犯シ并犯罪ノ內國人公使館ニ住居スル時ノ事

第六條 外國公使館ノ屬員ナル外國人殺傷或ハ剽盜放火強姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公使館

外ニテ現ニ行フヲ見及フカ或ハ現ニ見スト雖モ衆人ヨリ報告シ確證アリテ片時モ猶豫ナシ難キ時ハ其人ヲ其場ニ引留置即刻公使館ヘ報知ノ上同館ヘ引渡シ又外務省ヘ報知シ是ヲ公使館ニ引渡セシ手續ヲ申ヘシ決シテ手續捕縛等ノ事アル可カラス或ハ屬員ノ內國人ハ引留置即刻公使館ヘ報知シ改メテ彼ヨリ引渡ヲ受クルノ手續ヲ施シ又コレヲ外務省ニ申ヘシ

第七條 犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ白狀ヨリ明了ニ其罪科ノ知レタル內國人現ニ公使館内ニ備ハレテ公使館ニ住居スルホハ其館外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務省ヘ報知シ同館ヘ照會ヲ乞館主ニ引渡ヲ要求シ其人ヲ受取リテ後之レヲ捕縛ス可シ若シ館主之ヲ拒ムホハ其旨ヲ猶外務省ヘ報知シテ其處分ヲ定ムヘシ

第二十三條 本邦ノ裁判權ニ屬セサル外國人ノ身體、家宅、物件ニ關スル處分ニ付テハ本則ヲ適用ス可ラス

第二十四條 司法警察官ノ作ル可キ書類ニハ所屬官署ノ印ヲ用ヒ年月日場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎葉ニ契印ス可シ若シ官署、公署ノ印ヲ用フルニト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ

又書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄ス可カラス若シ投入、削除及ヒ欄外ノ記入ヲ爲ストキハ之ニ認印シ其字數ヲ記載ス可シ但削除ノ部分ハ讀ミ得可キ爲メ其字跡ヲ存ス可シ  
凡テ書類ハ文飾ヲ用ヒス簡明平易ニシテ事實ヲ失ハサルコトヲ要ス

第二十五條 被告人、證人其他ノ者ノ署名捺印ヲ要スル書類ハ之ヲ本人ニ讀聞カセ署名捺印セシム可シ若シ本人署名捺印スルコト能ハサルトキ又ハ氏名ヲ代書シ本人ヲシテ捺印若クハ捺印セシメタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

第二編 捜査

第二十六條 捜査ハ犯罪ノ證據及ヒ犯人ヲ檢舉シ公訴ノ提起及ヒ實行ノ資料ヲ得ルヲ以テ目的トス

第一章 捜査着手

第二十七條 捜査ハ現行犯、告訴、告發、自首、新聞、風説其他見聞シタル事物ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル場合ニ於テ着手ス可キモノトス

第二十八條 告訴、告發ノアリタル場合ニ於テ告訴ヲ告發ト稱シ告發ヲ告訴ト稱シ其他何等ノ名稱ヲ以テスルモノヲ受ケ宜シク實ニ從テ處分ス可シ

第二十九條 告訴告發ハ却下ス可キモノニ非ス其捜査ニ着手スヘキ事件ナルト否トニ拘ハラズ之ヲ受ケ相當ノ手續ヲ爲ス可シ

第三十條 書面ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨趣不明瞭ナルカ又ハ本人ノ意思ニ適合セサル可シト思料スルトキハ其取調ヲ爲シ調書ヲ作ル可シ

第三十一條 口述ヲ以テ告訴、告發ヲ爲シタルトキハ隨意ニ其事件ヲ陳述セシメ調書ヲ作ル可シ

第三十二條 告訴、告發ニ付キ増減變更ノ申立アリタルトキハ本人ヲシテ書面ヲ差出サシメ又ハ其調書ヲ作ル可シ

第三十三條 告訴、告發ヲ受クルトキハ成ル可ク犯罪ノ性質、方法、日時、場所、被告人、證人ノ住所、氏名其他證據及ヒ事實參考ト爲ルヘキコトヲ申立テシメ調書ヲ作ル可シ

第三十四條 被告人ヲ指名シテ告訴、告發ヲ爲シタルトキハ本人ト被告人トノ關係如何ヲ察シ其誣罔ニ出ツルナキヤ否ニ注意スヘシ又告訴人ノ如キハ一時ノ忿怒ニ因リ過實ノ申立ヲ爲スコトナキヲ保シ難キヲ以テ成ル可ク失誤ナキコトニ注意セシム可シ

第三十五條 告訴人、告發人ニ於テ犯罪ヲ申告シタルカ爲メ後難ヲ畏ル、模倣アルトキハ其氏名ヲ顯サ、ルコトニ注意ス可シ

第三十六條 代人ノ告訴、告發ニ係ルトキハ委任狀ヲ差出サシム可シ但法律上代理人告訴ヲ爲ストキハ此限ニゾラス

第三十七條 告訴、告發ノ取下アルモ其書面ハ返附スルモノニ非ス更ニ本人又ハ代人ノ署名捺印シタル取下申立書ヲ差出サシム可シ

口述ヲ以テ取下ヲ爲ストキハ其申立ニ付キ調査ヲ作ル可シ

第三十八條 官吏、公吏職務上ノ告發ハ檢事ニ爲ス可キモノナリト雖モ急遽ヲ要スル事件ニ付キ一面司法警察官ニ報告アリタル場合ニ於テハ司法警察官ハ通常ノ手續ニ從ヒ捜査ニ着手ス可シ

第三十九條 犯罪ヲ自首スル者アリタルトキハ其陳述ヲ錄取ス可シ

第四十條 自首ハ悔悟又ハ減刑ノ企望ニ出ツルモノ多シト雖モ或ハ他人ノ罪ヲ免レシムル爲メ自ラ誣ヒ或ハ重キ罪ヲ避クルノ意ヲ以テ輕キ罪ヲ首出スル等ノ事ナシトセス宜シク其虛實及ヒ盡不盡ニ注意ス可シ

第四十一條 新聞紙上犯罪事件ヲ記載シ又ハ犯罪アリタルノ風説ナルトキハ其出所、原因等ヲ取調ヘ其虛實ニ注意ス可シ

第四十二條 變死、創傷者アリタルトキ又ハ隱匿、埋藏物等ヲ發見シタルトキハ其犯罪ニ原因シタルヤ否ニ注意ス可シ

第二章 捜査處分

第四十三條 捜査處分ハ犯罪ノ原由、性質、方法、情狀、日時、場所、被害ノ形狀、多寡、被告人ノ氏名、年齢、職業、出生ノ地、住所、本籍、身分、品行、前科ノ有無及ヒ證人ノ體

ルコト其他證憑ト爲ル可キ一切ノ事物ヲ取調フルニ在リ  
又被告人ノ利益ト爲ル可キ模様ニ注意ス可シ

第一節 證憑及ヒ犯人ノ捜査

第四十四條 犯罪ノ場所又ハ證憑物件所在ノ場所ニ就キ捜査ヲ必要トスル場合ニ於テハ其處分ヲ爲スコトヲ得但家屋、建造物又ハ船舶ニ係ルルハ其戸主又ハ管守者ノ承諾ヲ得ルヲ要ス  
前項ノ場合ニ於テハ其實況ヲ錄取ス可シ

第四十五條 犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ハ所有者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置シ又ハ保全セシムルコトヲ得

領置シタル物件ハ其品目ヲ記載シ且目錄ヲ作り所有者又ハ保管者ニ渡ス可シ

第四十六條 前二條ノ處分官署公署ニ係ルトキハ其署ノ長又ハ之ニ代ハルヘキ者ノ許諾ヲ得ルヲ要ス

第四十七條 捜査上必要トスルトキハ犯罪ノ事實ヲ知ル可シト思料スル者又ハ被告人ヲ呼出シ若クハ其所在ニ就キ陳述ヲ聞クコトヲ得但呼出ヲ爲スニハ書面又ハ口頭ヲ以テ報知スヘシ  
又其承諾ヲ得テ犯所其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

第四十八條 前條ノ場合ニ於テ被告人其他ノ者ノ陳述ハ之ヲ錄取スヘシ

事實單簡ナルカ又ハ本人ノ希望アルトキハ書面ヲ差出サシムルモ妨ケナシ  
第四十九條 捜査上鑑定ヲ必要トスルトキハ之ヲ爲サシムルコトヲ得其結果ハ鑑定書ニ記載シ  
之ヲ差出サシム可シ

第九十六條ノ手續ハ本條ニモ亦之ヲ準用ス可シ

第五十條 物件ノ原形ヲ變スルニ非サレハ鑑定ヲ爲ス可能ハサル場合ニ於テハ鑑定ヲ爲サシム  
可カラズ但腐敗其ノ理由ニ因リ其物件ヲ保存ス可カラサルハ此限ニ在ラス

第五十一條 鑑定ノ爲メ死屍ノ解剖ヲ必要トスルトキハ檢事ノ許可ヲ受クヘシ其解剖ハ必要ナ  
ル部分ノ外之ヲ爲サシムヘカラス

(參照) 明治十年第二十二號布告變死ニ係ル屍ヲ警察官吏檢査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレ  
ハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事<sup>檢事派出ナキ地</sup>ノ許可ヲ受ク其部分ヲ解  
剖檢査セシムルコトヲ得

第二節 被告事件送致

第五十二條 被告事件ノ要領ヲ得タルトキハ送致ノ手續ヲ爲スヘシ但送致後ト雖モ必要ナルト  
キハ仍ホ捜査ヲ爲スヘシ

被告事件ヲ送致スルトキハ證據物件及ヒ意見書ヲ添ヘ且參考ト爲ルヘキ事項ヲ報告スヘシ

第五十三條 重罪、輕罪ノ捜査ヲ爲シタルトキハ速ニ其事件ヲ管轄裁判所檢事局ニ送致シ違警

罪ニ付テハ即決ヲ爲スヘキ官署ニ送致スヘシ

第五十四條 本邦ノ裁判權ニ屬セサル外國人ノ犯罪ニ付テハ捜査ヲ爲シタル者ヨリ其事件ヲ其  
地ノ地方裁判所ノ檢事局ニ送致スヘシ但急速ヲ要スルトキハ直チニ管轄領事廳所在地ノ地方  
裁判所ノ檢事局ニ送致スルコトヲ得此場合ニ於テハ速ニ其地ノ地方裁判所ノ檢事局ニ其旨ヲ  
報告スヘシ

第三編 假豫審

第五十五條 司法警察官重罪、輕罪ノ現行犯、准現行犯ニ付キ刑事訴訟法第四百十七條ノ處分  
ヲ爲スヲ假豫審トス

第五十六條 現行犯ニ付テハ被告人ヲ逮捕シタルト否トヲ問ハス假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 准現行犯ニ付テハ成ルヘク被告人ヲ逮捕シタル後假豫審處分ヲ爲スヘシ但數人共  
犯ノ場合ニ於テハ他ノ正犯從犯未ダ捕ニ就カスト雖モ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

家宅内ノ犯罪ニ付キ戸主又ハ戸主ニ代ハルヘキ者ノ請求ニ依リ檢證處分ヲ爲シタルトキハ被  
告人ヲ逮捕セスト雖モ其他ノ假豫審處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 假豫審ニ着手シタル事件ト雖モ一タヒ其手續ヲ止メタルトキハ復タ假豫審處分ヲ  
爲スコトヲ得ス

第五十九條 假豫審ニ着手シタル場合ニ於テ豫審判事又ハ檢事其處分ヲナサントスルキハ速ニ之ヲ讓ルヘシ

第六十條 假豫審ニ於テハ犯罪ノ性質、方法、日時、場所其他犯罪ニ關スル證據ニ付キ取調ヲ爲スノミナラス被告人ノ利益ト爲ルヘキ模様ニ付テモ亦其取調ヲ爲スヘシ

第六十一條 假豫審ニ關スル書類ハ司法警察官自ラ之ヲ作ルヘシ但時宜ニ因リ巡查、憲兵、上等兵等ヲシテ筆記セシムルハ妨ケナシ

第六十二條 假豫審處分ヲ了シタルトキハ第五十二條以下ニ從ヒ被告事件送致ノ手續ヲナスヘシ

第六十三條 假豫審ニ着手シタル後其取調ヲ繼續スヘキモノニ非スト思料スルトキハ速ニ其手續ヲ止メ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テハ直チニ之ヲ放免シ其旨檢事局ニ通知スヘシ

第六十四條 罰金ノ刑ニ該ルヘキ輕罪ニ付テハ刑事訴訟法第五十八條ノ處分ヲ除ク外現行犯ノ場合ト雖モ搜查處分ニ止ムヘシ

第一章 檢證、搜索及物件差押

第六十五條 假豫審ニ付キ事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ犯所若クハ其他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲スヘシ

第六十六條 假豫審ニ付テハ被告人又ハ其他ノ者ノ住居ニ臨檢シ搜索及ヒ物件差押ヲ爲スコトヲ得  
被告人又ハ事實ヲ證明スヘキ物件ヲ所持スルノ疑アル者ノ身体及ヒ之ニ屬スル物件ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 前條ノ處分ヲナスニハ戸主又ハ本人ノ承諾ヲ待ツニ及ハスト雖モ成ルヘク處分前其旨ヲ告知シ且公力ヲ用フルコトヲキテ要ス

第六十八條 事實ヲ證明スヘキ物件ヲ所持スト雖モ藏匿ノ情ナキ者ハ成ルヘク住居、身体又ハ物件ニ就キ搜索ヲ爲サズ本人ニ通知シテ其物件ヲ差出サシムヘシ

第六十九條 被告人ニ非サル者ノ住居、身体又ハ物件ヲ搜索スルハ物件藏匿ノ疑アル場合ニ限ルヘシ

第七十條 住居内ノ檢證、搜索、物件差押ニ付テハ戸主又ハ同居ノ親屬ノ立會アルヲ要ス若シ其在ラサルカ又ハ白痴、瘋癲、幼年者ナルハ市町村長又ハ其在ラサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第七十一條 官署、公署ニ於テ檢證、搜索、物件差押ヲ爲ストキハ其署ノ長又ハ之ニ代ハルヘキ者ノ立會アルコトヲ要ス



第七十二條 檢證、搜索ノ場所ニ於テ發見シタル物件ニシテ其出所、性質、形狀、用方等ニ因リ被  
告人ノ人違ナキコト又ハ犯罪ノ模樣ヲ知ルニ足ル可シト思料シタルトキハ之ヲ差押フ可シ  
官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者ノ所持スル物件ニシテ其職務上默秘ス可キ義務アル事情ニ  
關スルモノハ其承諾アルニ非サレハ差押ヲ爲スコトヲ得ス

醫師、藥商、穩婆、辯護士、辯護人、公證人、神職、僧侶其身分、職業ノタメ委託ヲ受ケタル物件ニ  
シテ默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルモノニ付テモ亦同シ

第七十三條 檢證、搜索、物件差押ヲ爲ス場合ニ於テ必要トスルトキハ其場所ニ於テ證人ノ陳述  
ヲ聽キ又ハ鑑定人ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十四條 住居内ノ檢證、搜索、物件差押ハ日出前、日没後之ヲ爲スコトヲ得ス但急速ヲ要ス  
ル場合ニ於テ戸主ノ承諾アリタルトキハ何時ニテモ檢證搜索ヲ爲スコトヲ得

第七十五條 旅店割烹店其他夜間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ於テハ其公開時間内ニ限リ何時  
ニテモ檢證、搜索物件差押ヲナスコトヲ得

第七十六條 住居内ニ於テ現ニ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯ス者アリテ急速ノ處分ヲ要スル  
トキハ何時ニテモ其現場ニ限リ檢證搜索物件差押ヲナスコトヲ得

第七十七條 住居内ノ檢證、搜索物件差押ヲナスニハ成ル可ク穩當ノ方法ヲ用ヒ濫ニ門戶竊壁

器具等ヲ損壞スルコトナキヲ要ス

又其處分ヲ終リタルトキハ書類物件ノ紛失、毀損ヲ防クタメ相當ノ處置ヲナスヘシ

第七十八條 檢證、搜索物件差押中雜沓、喧噪其他妨害ヲナス者アルトキハ之ヲ制止スヘシ又何  
人ニ限ラス允許ヲ得シテ其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得若シ其禁ヲ犯ス者アルトキハ  
之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルマテ留置スルコトヲ得

第七十九條 檢證、搜索物件差押ハ其處分ヲ終ルマテ停止セルヲ要ス若シ已ムコトヲ得サル事  
故アリテ之ヲ停止スルトキハ證憑湮滅ヲ豫防スルタメ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置ク  
コトヲ得

第八十條 住居搜索ヲナスニハ其目的トスル所ノ書類物件ヲ藏匿スルコトヲ得ヘント思料スル  
場所ニ限ルヘシ

第八十一條 檢證、搜索物件差押ヲシタルトキハ其圖書ヲ作ルヘシ差押ヘタル物件ハ其品目  
ヲ圖書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作り立會人又ハ所有者ニ其拔書又ハ謄本ヲ渡スヘシ

第八十二條 差押ヘタル物件ハ散佚毀損ヲ防ク爲メ認印若クハ封印ヲ爲シ且其差押ヘタル爲シタ  
ル年月日及ヒ件名ヲ記シ其物件ニ添付ス可シ  
又運搬シ難キ物件ニ係ルトキハ看守者ヲ付スル等便宜ノ處置ヲ爲ス可シ

第八十三條 事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ郵便、電信、鐵道ノ官署、諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ關係人ヨリ發シ若クハ此等ノ者ニ對シ發シタル書類、電報其他ノ物件ヲ受取ルコトヲ得但書類、電報ハ檢事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ開披ス可カラス

書類、電報、物件ヲ受取タルトキハ其證書ヲ渡ス可シ

第八十四條 差押ヘタル物件ト雖モ檢事局ニ送致スルニ及ハサルモノト認ムルトキハ所有者又ハ保管者ニ保全ヲ命シ其受書ヲ差出サシム可シ

第二章 證人訊問

第八十五條 假豫審ニ付キ事實發見ノ爲メ必要トスルトキハ證人ヲ呼出シ又ハ其所在ニ就キ訊問ヲナスコトヲ得

證人檢證、搜索ノ場所ニ在ルトキハ直チニ訊問ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 證人ニハ先ツ其氏名、年齢、身分、職業、住所及ヒ被告人又ハ被害者トノ關係如何ヲ訊問ス可シ但宣誓ヲ爲サシム可カラス

第八十七條 證人ヲ訊問スルニハ成ル可ク解シ易キ言語ヲ用ヒ證ニ法律ノ成語等ヲ用フ可カラス

第八十八條 證人ニハ自由ニ陳述セシム可シ其陳述ニ對シ辯駁討論ヲ爲ス可カラス若シ其陳述

他岐ニ涉ルトキハ之レヲ止メ齟齬アルトハ之ヲ質スヘシ

第八十九條 證人ハ愛憎、畏懼ノ心ヲ生シ或ハ他ノ陳述ニ雷同スルノ恐アルヲ以テ成ルヘク被告又ハ他ノ證人ト各別ニ訊問スヘシ但對質ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

第九十條 證人ヲシテ證據物件ニ付キ證明セシムルコトヲ要スルトキハ成ルヘク其物件ヲ示スヘシ

第九十一條 證人ヲシテ犯所若クハ其他ノ場所ニ就キ證明セシムルコトヲ要スルトキハ其場所ニ同行スルコトヲ得

第九十二條 證人雙ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシムヘシ

雙者、啞者文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ命スヘシ國語ニ通セサル者ニ付テモ亦同シ

第九十三條 證人ノ陳述ニ付テハ訊問ノ順序ヲ逐ヒ即時ニ其圖書ヲ作ル可シ

證人其陳述ヲ變更、増減センコトヲ申立タルトキハ更ニ其陳述ヲ聞キ圖書ヲ作ル可シ

第三章 鑑定

第九十四條 假豫審ニ付キ犯罪ノ性質、方法等ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要トスルトキハ醫師、穩婆、化學者其他學術、職業ニ因リ適當ノ識能ヲ有スル者ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十五條 第五十條第五十一條ノ規定ハ本章ニモ亦之ヲ適用ス

第九十六條 鑑定ハ鑑定人ノ自由ニ任セ其方法ニ付テハ干涉ス可ラスト雖モ成ル可ク現場ニ立會ヒ其結果ヲ得ルコトニ注意ス可シ

第九十七條 鑑定ノ手續、時間及ヒ其結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ記載セシメ其結果分明ナラサルトキハ其推測スル所ヲ記載セシム可シ

數名ノ鑑定人ヲ命シタル場合ニ於テ各意見ヲ異ニスルトキハ各自ニ鑑定書ヲ作ラシメ又ハ一個ノ鑑定書ニ其意見ヲ記載セシムヘシ

鑑定書ニハ鑑定セシ年月日ヲ記載シ署名捺印シ毎葉ニ契印セシムヘシ

第九十八條 鑑定書ニ不明不備ノ點アルトキハ更ニ其説明書ヲ作ラシメ鑑定書ニ添置クヘシ

第四章 被告人逮捕

第九十九條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ現行犯准現行犯ニシテ被告人現場ニ在ルトキハ直チニ之ヲ逮捕スヘシ但被告人身分又ハ事件ノ模様ニ因リ其逮捕ヲ必要トセザルトキハ此限ニアラス

第一百條 現行犯、准現行犯ニ付キ被告人ヲ追跡セル場合ニ於テハ其追及シタル場所ノ如何ニ拘ハラス直チニ之ヲ逮捕スルコトヲ得但日出前、日没後ハ戸主又ハ之ニ代ハル可キ者ノ承諾アルニ非ザレハ他人ノ家宅内ニ進入スヘカラス

第一百一條 被告人ヲ逮捕スルニハ成ル可ク穩當ノ方法ヲ用フヘシ

被告人兇器ヲ持シ抗拒スル場合ニ於テ已ムコトヲ得ズ劍銃等ヲ用フルモ決シテ自衛ノ區域ヲ踰ユヘカラス

第一百二條 假豫審ノ場合ニ於テハ現場ニ在ラサル被告人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

被告人他ノ管轄地内ニ在ルトキハ其地ノ司法警察官ニ勾引狀ヲ送致シ其執行ヲ囑託スヘシ若シ其事件急速ヲ要スルトキハ巡查、憲兵、上等兵ヲシテ勾引狀ヲ帶行セシメ又ハ電報ヲ以テ

逮捕ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得其囑託ヲ受ケタル司法警察官ハ其名ヲ以テ勾引狀ヲ發ス可シ

第一百三條 勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ護送途中及ヒ引致シタル時ヨリ四十八時間内ハ留

置場ニ入レ置クコトヲ得

第一百四條 勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ釋放ノ場合ヲ除ク外前條ノ期限内ニ檢事局ニ送致スルノ手續ヲナスヘシ

勾引狀ナクシテ被告人ヲ逮捕シタル場合ニ於テモ亦同シ

第一百五條 常人ニ於テ現行犯、准現行犯ノ被告人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サントスルトキハ成ル可ク其便宜ヲ計リ速ニ之ヲ受取ルヘシ

第一百六條 現行犯、准現行犯ニ付キ巡查、憲兵、上等兵又ハ常人ヨリ被告人ヲ受取リタルトキハ

逮捕ノ事由及ヒ申告ノ趣旨ニ付キ調査ヲ作ルヘシ  
逮捕ヲ爲シタル者ヨリ手續書ヲ差出シタルトキハ其相違ナキヤ否ヤ取調ヘ之ヲ調査ニ添置ク  
ヘシ

第一百七條 勾引狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名職業、住所年月日時ヲ記載スヘシ其氏名分明ナ  
ラサルトキハ容貌、體格等ヲ明示スヘシ

第一百八條 勾引狀ハ巡查、憲兵、上等兵ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

第五章 被告人訊問

第一百九條 假豫審ニ於テハ取證ノ機ヲ失セス且被告人ノ利益ヲ損セサル爲メ先ツ被告人ヲ訊問  
スヘシ但檢證、搜索、物件差押及ヒ證人訊問ニ付キ急速ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第一百十條 被告人ニハ先ツ左ノ事項ヲ訊問スヘシ

- 一 氏名、年齢、身分、職業、住所、出生ノ地
  - 二 有位又ハ帶勳者ナルヤ否
  - 三 前科ノ有無若シ前科アルトキハ其罪名、刑名、裁判官渡ヲ爲シタル處名及ヒ其年月日
- 第一百十一條 被告人ヲ訊問スルニハ穩和ヲ旨トシ且其年齢、身分、性質等ヲ斟酌シ一様ノ訊問  
ヲ爲スヘカラス

第一百十二條 訊問ヲ爲スニハ平易ノ語ヲ用ヒ濫ニ法律ノ成語等ヲ用フ可カラス又簡明ヲ旨トシ

勉メテ疑似ニ涉ルコトヲ避クヘシ

第一百十三條 被告人ニハ自由ニ發言セシムヘシト雖モ餘事ニ涉ラシメサルコトニ注意スヘシ

第一百十四條 訊問ハ一事項毎ニ其端ヲ更メ成ルヘク同時ニ數事項ヲ訊問スヘカラス

數罪俱發ノ場合ニ於テハ成ルヘク一罪ノ訊問ヲ終リタル後他罪ニ及フ可シ

第一百十五條 數人共犯ノ場合ニ於テハ成ル可ク各別ニ訊問シ其通謀ヲ防ク可シ且輕ク事實ヲ得  
可シト思料スル者ヨリ訊問ヲ爲ス可シ

第一百十六條 證憑物件ハ時機ヲ計リ之ヲ被告人ニ示シ其辯解ヲナサシム可シ

第一百十七條 事實發見ノ爲メ必要ナル場合ニアラサレハ被告人ヲシテ他ノ被告人又ハ證人ト對  
質セシム可ラス

第一百十八條 第九十二條ハ被告人訊問ニ付テモ亦之ヲ適用ス可シ

第一百十九條 被告人ノ舉動ハ事實發見ノ端緒トナルコトアルニ因リ其言語、氣色等ニ注意ス可  
シ

第一百二十條 被告人ノ白狀アリト雖モ一概ニ眞實ト做ス可カラス其白狀ニ適應スル證據ノ有無  
ヲ取調フルコトニ注意ス可シ

第一百二十一條 訊問ニ付テハ即時ニ其調査ヲ作り問答ノ始末及ヒ被告人ノ舉動等遺漏ナク記載

ス可シ

第九十三條ノ手續ハ被告人訊問調査ニ付テモ亦之ヲ適用ス可シ

### 第二十八 獄 務

●告示第五號

明治廿六年一月廿日

本縣監獄署來ル一月廿三日靜岡市追手町舊城内ニ移轉同日ヨリ同所ニ於テ事務取扱フ

●告示第十三號

明治二十八年三月七日

明治廿八年三月卅一日限下田監獄支署ヲ廢ス

●告示第六號

明治廿七年一月十六日

看守志願手續左ノ通相定ム

但志願者資格ハ明治廿六年十二月十九日官報第三千四百十三號ヲ参照スヘシ

#### 看守志願手續

第一條 看守志願ノ者ハ第一書式志願書ニ第二書式履歷書ヲ添ヘ監獄署ニ出願スヘシ

第二條 前條志願者ニシテ看守精勤證書ヲ有シ又ハ士官適任證書ヲ有スル者ハ該證書寫ヲ添付

スヘシ

第三條 看守ノ試験ハ毎月第一第三金曜日兩度之ヲ執行ス

第四條 身元保證人ハ本縣下ニ居住シ正確ナル者ニ限ルヘシ

但不相當ト認ルキハ其人ヲ改メシムルコトアルヘシ

(書式零ス)

## 現靜岡縣令達類纂終

明治三十二年一月十五日印刷  
明治三十二年一月十九日發行

# 静岡縣知事官房

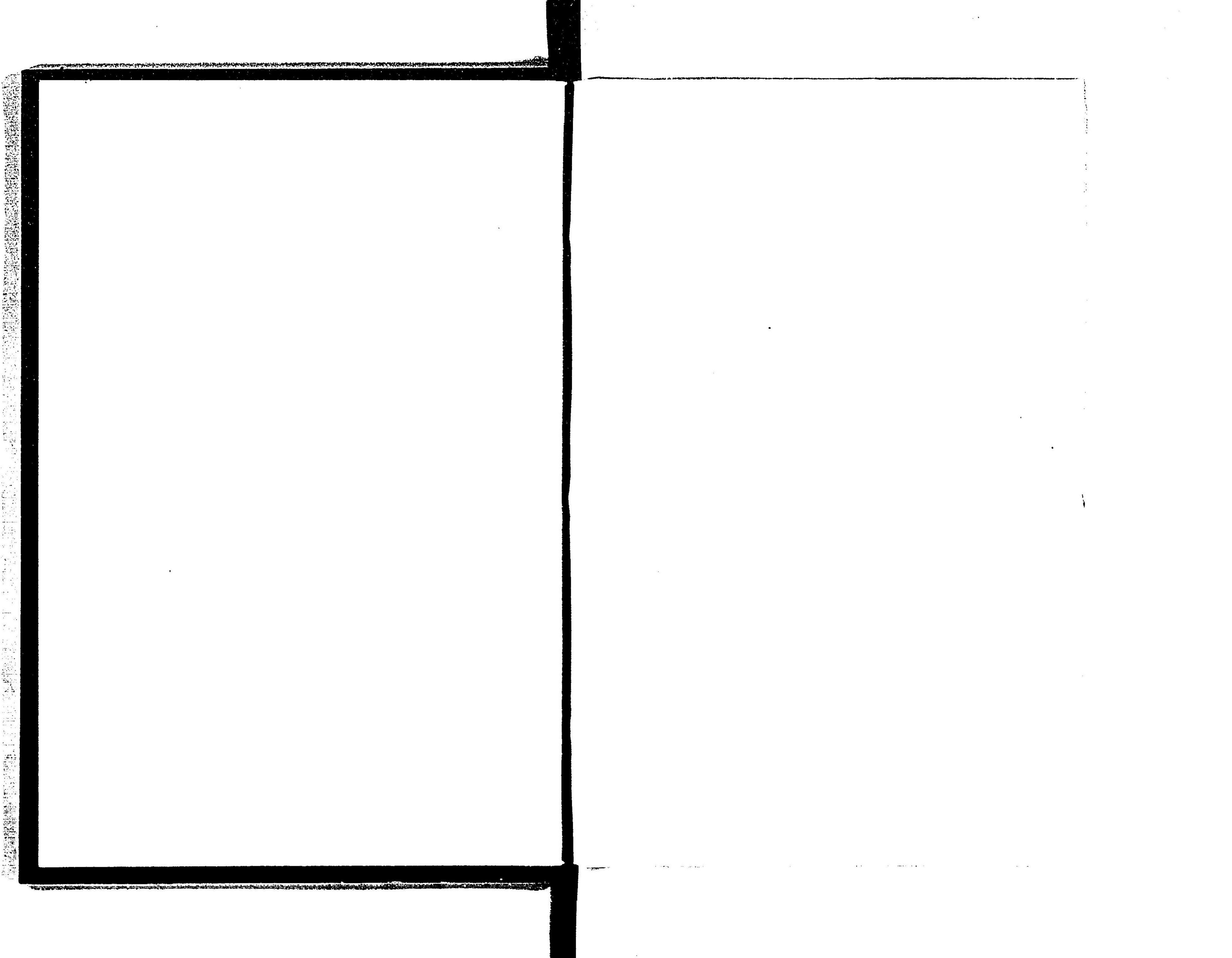
印刷者 酒井儀光

静岡縣静岡市上石町二丁目拾七番地

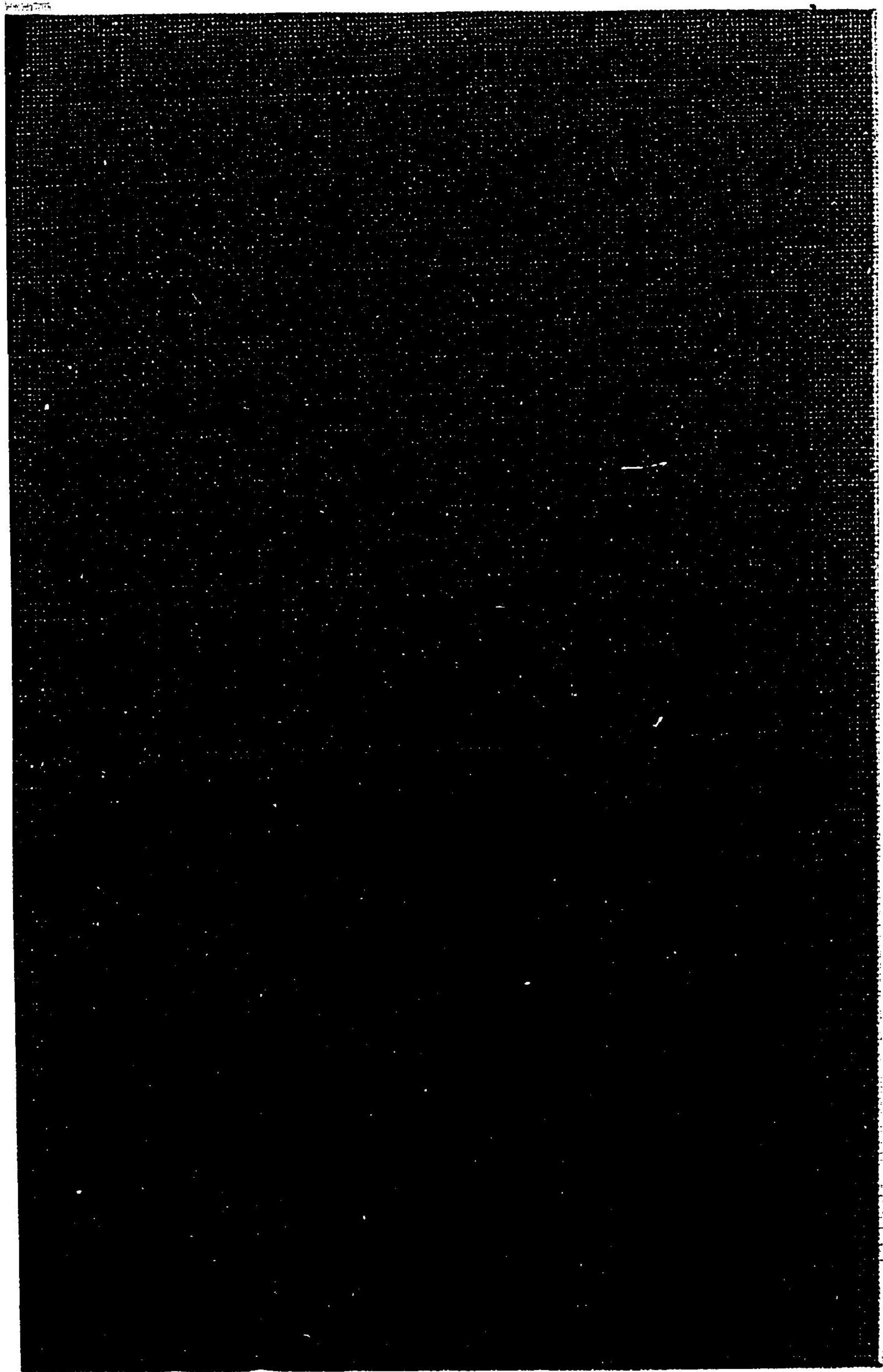
發賣所 錦光堂

静岡市江川町

447A-88







031273-000-5

CZ-1113-59-06

現行静岡県令達類纂

静岡県

M32

BBD-0400



